第41回
無限軌道杯
号外 第1号

乙女たちの戦車道ライフをサポートする専門誌

月刊 戦車道

連載開始!
ガルパン関係者が行く
世界のミリタリー
博物館探訪記

遠隔操作で動く無人戦車が集結!
不肖・秋山優花里の
戦車講座





巻頭特集 大洗女子 新チーム誕生の瞬間!
グラフィック イン アクション

大洗女子学園に新たな騒動が勃発!
戦いの軌跡

無限軌道杯出場校をクローズアップ
ライバルチーム研究

ガルパン関連の最新情報をピックアップ!
ガルパン トピックス

ガルパンをバックアップする関係者を徹底取材!
プロジェクトG~ガルパンを支えた人びと~



グラフィック イン アクション
GRAPHIC IN ACTION



大洗女子9番目となる新チームが誕生!

かつて退学寸前だった自分たちを庇ってくれた河嶋桃がピンチと知り、戦車を探す手助けをした大洗女子学園船舶科の5人。戦車の知識は全く無いが、河嶋の恩に報いるべく、発見されたマークIVの乗員として名乗りをあげた。

いつもたむろしているBAR「どん底」で、チーム結成を祝して固めの杯を交わす彼女たちは、このあと特訓を受け、20年ぶりに開催される無限軌道杯にサメさんチームとして参加することになる。

戦いの軌跡

第41回 無限軌道杯 参戦までの道のり

いよいよ始まった最終章。第1話で明らかになったストーリーを、トピックごとに振り返ってみよう。

新生徒会が発足した大洗女子学園に新たな騒動が勃発

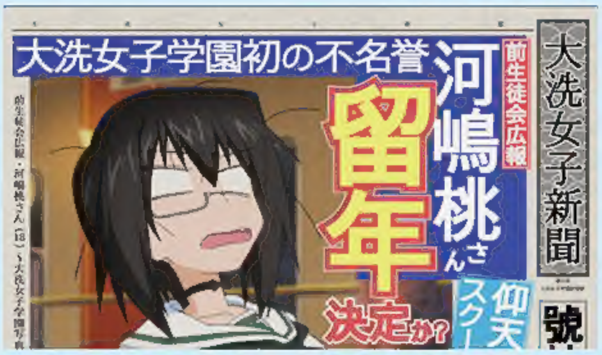
二度に渡る廃校の危機を、「第63回戦車道全国高校生大会」での優勝と、大学選抜チームへの勝利で見事に切り抜けた、大洗女子学園戦車道チーム。

慌ただしかった夏が終わり、これまで学園存続に尽力してきた、角谷杏をはじめとする生徒会執行役員の3年生が引退した。新しい生徒会長に2年生の五十鈴華、副会長に秋山優花里、広報に武部沙織がそれぞれ就任し、新体制での活動が始まろうとしていた。

しかしその矢先、誰よりも学園存続を願い奮闘していた河嶋桃の留年疑惑スクープが報じられる。

学園初の不名誉な噂に、生徒たちは大騒ぎ。実は河嶋、勉強をせずに新しい戦車探しをしていたため、模試が散々な結果に。留年ではなく、浪人の危機に瀕していたことが判明する。

「もう二度と廃校という憂き目にあわないよう、大洗の戦車道を盤石なものにしたいんだ」そんな河嶋の想いを知ったみほたちは、冬季大会で河嶋を隊長にして優勝し、AO入試で有利になるよう、チーム一丸となって協力することを決定。かくして、河嶋の留年阻止……ではなく、河嶋を大学生にするための、新たな戦いが始まる!



留年者が出そうなのは学園初ということで、新聞部が号外を発行。校庭の街頭テレビでは、放送部員たちによる緊急インタビュー放送が流れた。




就任早々の騒ぎにも慌てず、冷静に対処する新生徒会メンバー。沙織は、「学校にもう一年いるんだったら広報はゆっくり引き継ぎやりましょうよ」と呑気な構え。


まほのドイツ留学も、アズミ、ルミ、メグミがスポーツ特待生で入学できたのも、戦車道のおかげ。優勝すれば、河嶋のAO入試突破も夢じゃない!?

卒業を間近に控えた3年生たち


ホシノ　スズキ　ナカジマ　ぴよたん　園 みどり子　小山柚子　河嶋 桃　角谷 杏

大洗女子学園の卒業予定生徒は、全部で8名。カメさんチームは全員、カモさんチームは元風紀委員長の園みどり子、アリクイさんチームはぴよたん、レオポンさんチームはツチヤ以外の3人。角谷と小山は同じ国立大学を志望しており、河嶋も今大会の優勝を引っさげて、二人と同じ大学のAO入試に挑む構え。果たして浪人は回避できるのか!?

戦いの軌跡 第41回 無限軌道杯 参戦までの道のり



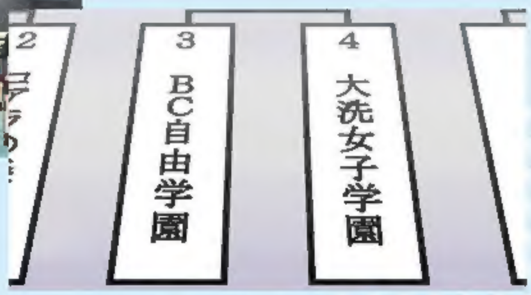
無限軌道杯とは?

今年の正月に、二十年ぶりに復活したという「無限軌道杯」。戦車道連盟が設立されたことを記念して始められた大会だったが、第40回大会まで実施した後、中止されていた。

近年になり、戦車道プロリーグの発足を目指す動きや、世界大会に向けての選手育成・強化の必要性の高まりを受け、再開が決定。全国高等学校戦車道冬季競技会として、第41回大会が開催されることになった。

今大会には、第63回戦車道全国高校生大会優勝校の大洗女子学園(茨城)をはじめ、強豪・黒森峰女学園(熊本)、聖グロリアーナ女学院(神奈川)、知波単学園(千葉)、サンダース大学付属高校(長崎)、アンツィオ高校(栃木)、プラウダ高校(青森)、継続高校(石川)など、16校が参加。試合は、勝ち抜き戦のトーナメント方式。対戦は抽選で決められ、大洗女子学園はBC自由学園との対戦が決まった。





サンダース大学付属高校のケイによると、優勝の可能性は「すべて組み合わせ次第」。河嶋が引き当てた初戦の相手は、BC自由学園だった。

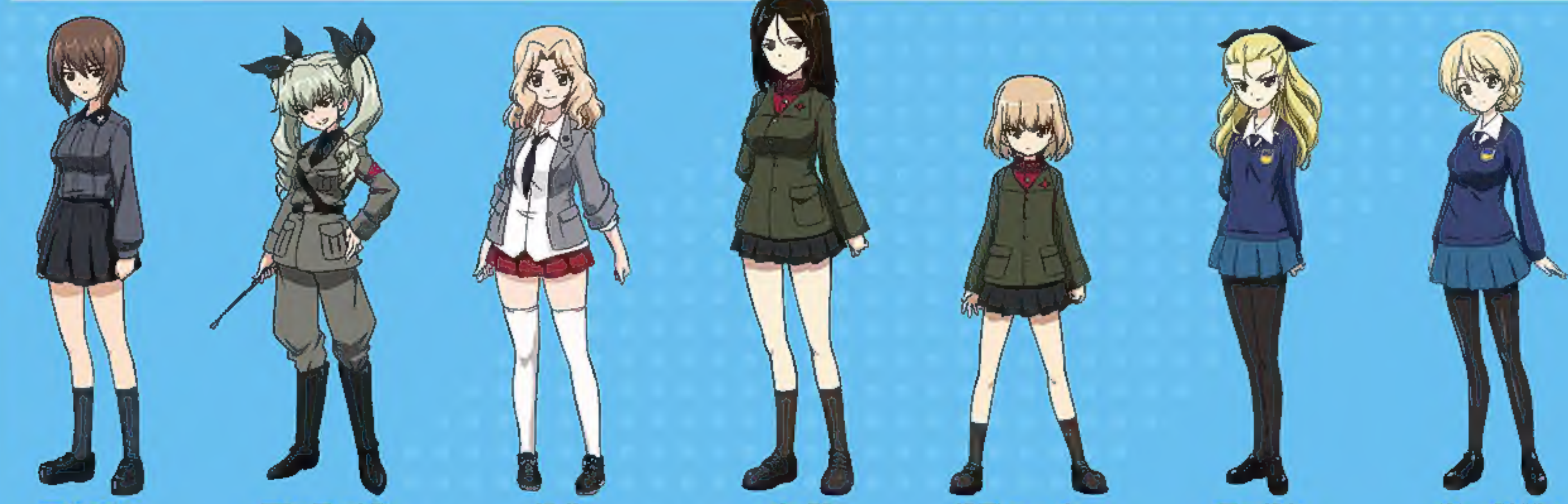




大会本部には、大洗女子学園の廃校撤回に協力してくれた日本戦車道連盟理事長・児玉七郎氏をはじめ、審判を務める陸上自衛隊富士学校富士教導団戦車教導隊・蝶野亜美一等陸尉の姿が。また、かつて戦車道をたしなんでいたと思われる年配女性が来賓として招かれている。優勝トロフィーにかたどられているのは、第一次世界大戦時にフランスが開発した、サン・シャモン突撃戦車。



中高一貫のお嬢様学校だという、BC自由学園。しかし中高一貫組と、高校からの受験組が反目し合っているらしく、抽選会場でも、くじ引きの結果で言い争いをし始める。



ライバル校も、卒業生にリーダー格の生徒がずらり。まほは留学先のドイツに渡航済みで、今大会は不参加。ダージリンもイギリス留学が決定している。カチューシャもロシアへの留学を考えているようだが、ノンナのロシア語の勉強はお昼寝がちで、今後の進路は不明。いずれにせよ、各校リーダー交代となる来季を見据えた重要な大会。波乱が起きそうな予感!

新戦車発見への道

学園艦内に戦車があるという、新たな書類を見つけた河嶋。「無限軌道杯までに、なんとか新しい戦車を見つけたい。わたしが残せるものは、それぐらいしかないからな」という、母校に対する深い愛情のため、受験勉強を投げ打って、独自の捜索をしていた。

河嶋がとった作戦は、学園艦の甲板から、地中レーダーを使って艦内をくまなくスキャニングする方法。模試で、志望大学の合格判定がオールDになるほど捜索に没頭した結果、奇しくも、自身の留年のスクープが出たその日、かすかな反応があった。

その場所は、グリッドG5レベル4、つまり艦底部。後輩たちが、自分のために戦ってくれることに感動した河嶋は、率先して戦車を探しに行こうとするが、沙織に「わたしたちが探しますから」と止められ、受験勉強に専念。代わりにみほたちが、戦車の捜索に乗り出すことになった。



地中レーダーを搭載した、無線誘導型ゴリアテを使ったローラー作戦で、見事に新戦車を探し出すことに成功。諦めずに探し続けた、河嶋の勝利!



地中レーダーにアンノウンを発見。モニターに映し出されたサイズから、戦車の可能性大と判断された。河嶋も思わず「よし、やった!」と大喜び。





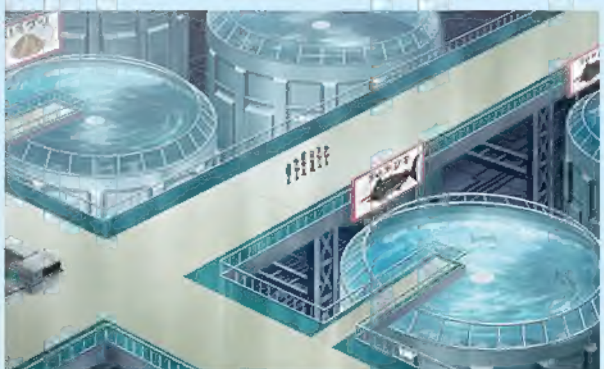
地中レーダーのデータは、リアルタイムで生徒会作戦室のモニターに転送される。作戦室では、数名のオペレーターがモニターをチェックしていた。

学園艦の深部へ!

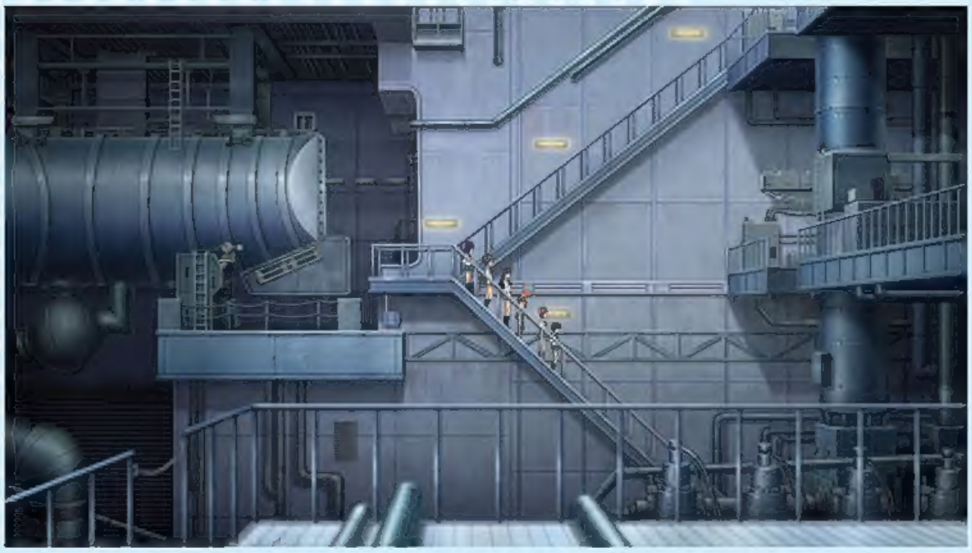
大洗女子学園の学園艦は、他校と比べて小型とは言え、全長が約7600メートル、底から甲板までの高さは約690メートルにも及ぶ。学園艦で生活しているのは、生徒も含め約3万人。その多くが活動しているのは、商店街や住宅街、校舎のある甲板で、エンジンなどの機関部がある艦底は、船舶科の生徒がたむろする危険地帯。そこで、元風紀委員長として、艦内風紀を取り締まってきたそど子が案内をしてくれることになった。

そど子の先導に従い、細い通路を進んでいくみほたち。途中ですれ違った水産科の生徒がにこやかに挨拶してくれたので、「全然危なくないじゃない」と言う沙織。しかしそど子によると、艦内の上層部にいるのは、気質が穏やかで、それなりに校則を守る生徒。しかし船底に近づけば近づくほど、治安が悪くなっていくという。最後の梯子を下りた先に、待っていたのは!?





学園艦の生活は、基本的に自給自足。水産科の生徒たちは、艦内のプールではまぐりやカジキマグロを養殖して、食糧供給の一端を担っている。



養殖プールの先の階段を降りると、浄水場がある。浄水場の先は、梯子でしか下りることができない機関部。発電用のタービンや巨大なエンジンを横目に最下層まで降りていくと、船底に到着する。



戦いの軌跡 第41回 無限軌道杯 参戦までの道のり

大洗のヨハネスブルグ艦底部で待つものは……？

生徒会の手が及ばない無法地帯だけあって、艦底の通路にはゴミが散乱し、壁は落書きだらけ。部屋では、スカートを長く伸ばし、奔放な髪型をした船舶科の生徒たちが、ドラム缶で火を焚いたり、寝転がったりしている。

怖い視線を浴びながら先に進んでいくと、2人の生徒に道を塞がれた。毅然とした態度で立ち向かうそど子だったが、あっさり捕まって連れ去られてしまう。そど子を助けるため、後を追ったみほたちは、艦底の隠し通路のドン詰まりにある、アヤシイ雰囲気の店、BAR「どん底」に辿り着く。

おそるおそる中に入ったみほたちを出迎えたのは、荒くれ船舶科の生徒たち。そど子を返せと迫る麻子と、戦車について教えて欲しいと申し出る華。そして、タダじゃ返さないし、教えないという彼女たちと、それぞれタイマン勝負をする。





ガラの悪い船舶科の生徒から胡散臭そうな視線を浴び、ビクビクしながら歩くみほや沙織。一方、そど子や優花里、麻子、華は肝が据わった様子。





連れ去られたそど子を追うが、行き止まりに。そこで、勘の良い優花里が隠し扉を発見！しかし横開きではなく縦開きだったため、勢いよく突っ込んでしまい、痛い目に……。



縄ほどき、手旗信号、指相撲、殴り合いに全戦全勝したみほたち。怒った4人が襲いかかろうとすると、「そこまで」と声がかかる。

学園艦を支える船舶科のお仕事

国際化社会に対応した広い視野を持った人材の育成と、学生の自主独立精神を養い、高度な学生自治を行うために製造され、活用されてきた学園艦。大洗女子学園の学園艦では、船舶科の生徒たちが三交代制で操艦を行っている。船舶科の生徒たちは、学生としての勉強もこなした上で、操艦実務もこなさなければならないが、その分、学費が全額免除されるという優遇措置がある。

一般的な学園艦の場合、発電用のタービンやエンジンなどの機関部が設置されているのは、艦の艦底部。つまり、業務上の必要性から、船底は自然と船舶科の縄張りになっていたと思われる。

船舶科の生徒たちは皆、ハードワークをこなすタフさはもちろんのこと、巨大な学園艦を動かしているのは自分たちだという船乗りのプライドを持った、海賊のような荒くれ者も多い。日々身体を張っているからこそ、BAR「どん底」のような癒しの場所が必要……なのかもしれない。





喧嘩に待ったをかけたのは、頭領のお銀。上下関係が厳しいのか、お調子者のフリントとラム、腕っ節の強いムラカミ、お色気バーテン・カトラスは、お銀の言うことに素直に従う。

大洗女子学園の新戦力
海賊魂を持つ『サメさんチーム』

河嶋桃が手掛かりを発見した新たな戦車を求めて、学園艦の艦底部に向かったあんこうチームが出会った、船舶科の生徒。姉御肌のお銀を中心に、BAR「どん底」にたむろしている5人組で、学園艦の運航に携わる「船乗り」としての精神にこだわりを持っている。柄が悪く、口調や態度は乱暴だが、義理人情に厚く心根は優しい。素行が悪く、成績もあまり良くないためか退学の危機を迎えたことがあるが、その際に面倒見のいい河嶋によって退学を免れており、彼女に強い恩義を感じている。あんこうチームが河嶋を救うべく戦車を探していることを知ると、全面的に協力して戦車を発見。新たなチームとして加わるべく名乗りを上げた。





サメさんチームは、お銀が車長、ラムが操縦手、フリントが操縦手兼通信手、ムラカミとカトラスが砲手を務める。河嶋の恩に報いるために参戦しているので、命令も河嶋のものしか聞かない。



お銀

BAR「どん底」に集まる船舶科の生徒たちのリーダー的存在。華に激辛ハバネロクラブの飲み比べで勝負を挑んだ。ニックネームは、「竜巻のお銀」。



カトラス

BAR「どん底」のバーテンダーで、その性格は無口でクール。麻子と指相撲で勝負するも、鍛えられた指の力に完敗する。ニックネームは「生しらす丼のカトラス」。



ラム

酒を飲んでいないのにまるで酔っ払っているような赤ら顔とクセの強い赤い髪が特徴。手旗信号の問題を出すも、沙織に解読されて敗退。ニックネームは「爆弾低気圧のラム」。



ムラカミ

大柄で豪腕。メンバーの中でもケンカっぱやいが、みほに腕っ節で勝負を挑むもすべて綺麗に避けられてしまう。ニックネームは「サルガッソーのムラカミ」。



フリント

スリムな色白の美女で、マイクを片手に得意のカラオケで美声を披露している。ロープの結び方で戦いを挑むが優花里に敗れる。ニックネームは、「大波のフリント」。



Mk. Ⅳ戦車

戦車の歴史は、第一次世界大戦時にイギリスが塹壕を乗り越えるための大きな車体を持つ兵器として開発に着手し、海軍によって「陸上戦艦」として試作されたことから始まっている。史上初の戦車であるMk. Ⅰから発展し、実用レベルでの集大成として誕生したのがMk. Ⅳである。大洗女子学園では、かつて戦車道の試合で使っていたが、学園艦の最深部に取り残され、BAR「どん底」の燻製品作りに使われていたためこれまで発見されなかった。自動車部のメンテナンスによって復活し、大洗女子学園の新たな戦力として加わることになる。







回転式砲塔が開発される前の車輌であり、第二次世界大戦時の車輌とは異なる菱形の形状と、車体側面のスポンソンに配置された砲郭が特徴。登場時にサメさんチームが海賊旗を掲げていたのは、当時の通信用のアンテナである。

本物はこんな戦車

第一次世界大戦時の戦いは、進軍する敵歩兵を地面に溝を掘って迎え撃つ「塹壕戦」がメインであった。そのため、塹壕を越えて敵地深くまで歩兵を守りながら進撃する兵器として、戦車の開発が行われた。Mk. Ⅳは、最初の量産型戦車であるMk. Ⅰから発展していった4番目の車輌である。Mk. Ⅳは6ポンド砲を搭載した雄型と、機関銃のみを搭載した雌型があり、大洗女子学園の車輌は雄型が使用されている。



写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



対戦車戦を想定していない設計のため、第二次世界大戦の戦車に比べると機動性は低く鈍重。オリジナル車輌は操縦するために4人の乗員が必要だったが、大洗女子学園で発見されたタイプはトランスミッションとブレーキを改良することにより、2名で操縦することが可能となっている。



初参戦となった対BC自由学園戦では、当初こそサメさんチームの練度の低さから足手まといに見えたが、その大きな車体を利用することで、橋の上で窮地に陥った仲間車輌の脱出に貢献している。今後の戦略的な拡大の可能性を秘めていると思われる。



構成・脚本
吉田玲子 インタビュー

3年生の卒業というテーマを中心とした物語で動き始めた『ガールズ&パンツァー 最終章』。その物語はどのように構築され、そしてどんな思いが込められているのか？ テレビシリーズから劇場版、そして最終章でも脚本を担当した吉田玲子さんに最終章に込めた思いとこだわりについて話を伺った。

新しい章の始まりということで、キャラクターの内面や雰囲気などを改めて紹介するようには意識しています

――ついに最終章がスタートしましたが、本作の物語や設定はどのように作られたのでしょうか？

吉田　まずは「大洗女子学園の子たちがなぜ戦うのか？」という理由から作っていきました。企画を練っている段階では、プロリーグを絡めたものをはじめ、ストーリー的なアイデアはいくつか出たんですが、劇場版の延長として、3年生が卒業するという部分を描こうということになりました。現状の大洗の戦車道チームメンバーの終焉という感じで、3年生の卒業に焦点を当てています。

――彼女たちの戦うモチベーションは、先輩である河嶋桃の進学になるわけですが、なぜ彼女を中心に描くことになったんですか？

吉田　劇場版のその後の展開として、「卒業して、みんな進学するのだろう」ということを考えた時に、壁になることは何だろうと思ったわけです。そして、そう言えば河嶋は「意外と成績が悪い」という部分も含めてスペックが低いということが何かきっかけにならないかなと。そこから状況を膨らませていって、彼女の進学が難しくなったらそれが理由になって、みんなそのために戦えるんじゃないかと。

――河嶋は、初登場時には嫌味なキレ者キャラのように見えますが、だんだんイメージが変わったキャラクターですよね。当初から、そうしたキャラクターの変化については考えていたんですか？

吉田　そんなことはなくて、まさかここまでポンコツぶりを見せることになるとは思っていませんでした。そういう意味では、動いていったキャラクターではありますね。話を書き進めるに従って、ポジションが決まっていったというか、面白いポジションについてくれたという感じです。トーナメントが進むうちにだんだんダメっぷりを発揮していって、でも愛されるキャラクターになっていったという感じだったので、そこをうまく拾えれば物語的に面白くなるのではないかなと考えました。

――そうした流れの中で、生徒会も世代交代をすることになるわけですが、その役割をあんこうチームが担うという流れはどのように考えられたんでしょうか？

吉田　劇場版の公開後にやった「第2次ハートフル・タンク・カーニバル」というイベント用のオリジナル朗読劇として、生徒会の新たなメンバーが決まるという話を書いていたので、それをベースにしました。物語の自然な流れで、生徒会を継ぐとしたらあんこうチームしかないだろうと思っていましたし、メンバーに関しても「あの中で会長をやれそうなのは華かな？」「装填手としてサポートに慣れているのは優花里だな」というような「らしさ」重視で選んでいった感じですね。それから、新しい章の始まりということで、キャラクターの内面や雰囲気などを改めて紹介するようには意識しています。

――学校を舞台にした作品だからこそ、卒業は描いてみたいポイントだったということでしょうか？

吉田　そうですね。他のライバル校の生徒たちも含めて、3年生たちがどんな進路を選ぶのか？ チームの要となる先輩が抜けた分、後輩がどう頑張ろうとするのかなど、世代交代な感じは意識しています。3年生にとっては、高校生活において最後の戦いになるという部分での心情的な描き込みも見所になっていくと思います。

――第1話の物語としては、大洗女子学園の戦力増強がメインとなっていますね。

吉田　企画時から、大洗女子学園にもう1輌戦車を加えたいという熱い要望がありまして。そこで第1話はCGで4種類の戦車を新しく作れるということから、うち1輌を大洗女子学園の車輌にすることになりました。話し合いの結果、車輌についてはMk．Ⅳ戦車に決まったので、そこから乗員が何人必要で、どういうチームにするかを決めていきました。水島(努)監督をはじめ、スタッフから今まで描けなかった船舶科の存在や学園艦の下層部を描きたいということから舞台設定が始まり、「船舶科の生徒＝船乗りなら、荒っぽいイメージだから海賊だよね」ということで、キャラクターが固まっていった感じですね。メンバーも海賊のチームで良く見るシンプルな分け方にしています。

――展開としては彼女たちと出会うまでも大きな見せ場にもなっていますね。

吉田玲子オススメ！ ここが見所！

最終章 第1話から、吉田玲子さんが印象に残った&こだわったシーンをピックアップ。再度観直す際には、より注目して観てみるといいだろう。



「自然な流れとして、生徒会を継ぐとしたら、やはりあんこうチームしかないですよね」（吉田）



「ボコボコにやられる」と書きながらも、あんこうマークが傷つくという冒頭シーンには驚きました」（吉田）

構成・脚本
吉田玲子インタビュー

吉田　監督が「どん底にあるバーにしたい」というので、そこまでの道のりもちょっと面白くしたいと思って。なかなか普通では行き着けない場所だから、戦車もそこにあるのが分からなかったという流れになりました。また、そこで今までの経験を積み重ねたあんこうチームを見せたかったというのもあります。大きな成長ではないけど、試合をいくつかこなして、それが経験として彼女たちの中に根付いている。そして、それぞれがひとつのことを一生懸命やってきた結果、それに対する考え方や能力がちょっとずつ伸びていて、新しい生徒会にもなったので、戦車道をやってきた彼女たちが、今までとはちょっと違ったものを身につけたということを少しでも出せればいいなと。

――サメさんチームが加わったことで、大洗女子学園の戦い方も変わってきたという部分はありますか？

吉田　チームや戦車といった、新しく出てくるものの活躍や見せ場は作らなくちゃいけないという意識があるので、今までの大洗女子学園とは、随分と戦い方が変わっている部分があると思います。出た瞬間にはガッカリするような戦車ですが、「こんな使い方があるんだ」という感じにはなっていますね。大洗女子学園がどうピンチになり、そこでどうMk Ⅳ戦車が活躍するかを考えた結果があの流れになっています。

――ちなみに、キャラクターの詳細に関しては、どのような手順で出来上がっていったのでしょうか？

吉田　「何となくこんなキャラクターにしましょう」とシナリオの初期稿で書くと、島田フミカネさんは手が早い方なので時間を空けずにデザインのラフが上がってきたりするんです。その絵のおかげでイメージが掴みやすくなって「こういうイメージなら、こんな言動をさせよう」と稿を重ねるうちにキャラクターが固まっていくという感じですね。

――対戦相手のBC自由学園に関しては、どのように構築されたんでしょうか？

吉田　今まで出ていない学校を出すということで、BC自由学園に決まりました。学校の名前から連想しつつ、フランス革命の貴族と平民の争いのような分かり易い構図に置き換えています。一方で、フランス戦車はそんなにスペックが高そうじゃないので、どこで大きく大洗女子学園が追い詰められるのかを考えた時に、作戦ミスと判断ミスが原因になるだろうということから、学校内で仲が悪そうなところが油断ポイントになるという流れに決まっていきました。また、ガルパンはキャラクターが多いので、マリーや押田、安藤らのメンバーに関しても、分かり易いというか、一目で特徴が掴めるような部分を意識しています。

――大洗女子学園が前回の優勝校だったということから、今回の無限軌道杯ではBC自由学園だけではなく、全体的に警戒されているという雰囲気もありますね。

吉田　そうですね。優勝したゆえに作戦を練られてピンチになっていくという感じにはなっていくと思います。また、敵として大洗女子学園と戦うチームの頑張り具合はこだわったポイントですね。BC自由学園もそうですし、初対戦となる学校は、ある種昔の大洗女子学園を見ているような必死さ、テレビシリーズでの強豪チームに向かうような雰囲気があるわけです。敵チームは単純に強いというわけではなく、あの頃の大洗女子学園のように一生懸命作戦を練って向かってくるというのが、今回のシリーズの新たな面白さだと思います。BC自由学園もそうですし、他の学校もそれぞれの考えを持って対大洗女子学園戦をどう戦うのか？　それを、優勝校である大洗女子学園がどうねじ伏せるのか？　そこが無限軌道杯のポイントにはなっていますね。

――無限軌道杯に関しては、決まるまで何か紆余曲折はありましたか？

吉田　本的にはノリで決まったという感じです（笑）。前の全国大会とは違う、季節で行われるものではない、特別な大会らしい名前が判りやすいだろうということもありました。ということで、今回20年ぶりに復活するという感じですね。

――脚本という作業は、映像制作に入る前に仕事は終わってしまうわけですが、実際に出来上がった映像を観てみた感想はいかがでしたか？

吉田　今回に限らず、映像を観ていつも驚くのは、やはり戦車戦の部分ですね。脚本段階で考えているよりも想定外に迫力ある感じに仕上がっていることが多いです。今回に関しては、Mk.Ⅳ戦車が橋になるところはイメージとは違っていましたね。まさかあんなに鈍重で橋の代わりになるとは思っていませんでしたし、乗っているチームのキャラクターたちもそうですが、戦車も新たなキャラクターの一人であるということを、あそこで強く感じました。

――映像で観て、印象が変わった戦車はありますか？

吉田　Mk.Ⅳ戦車が目立って良かったなと思いました。新しく出したかいがありましたね。フランス戦車に関しては、「わりと軽快」というイメージしかなかったので、敵としてそこまで特徴を押し出すという感じではなかったんです。あの作戦がうまくハマり、大洗女子学園がピンチに陥ったことに納得してもらえることに力を入れているという感じですね。

――では、最後に最終章の今後を楽しみにしているファンのみなさんにひと言お願いいたします。

吉田　先ほども言いましたが、大洗女子学園がピンチをどう切り抜けていくかが最終章を通しての面白い部分だと思います。テレビシリーズとは違ったピンチに毎回陥りますし、それを切り抜ける展開にハラハラ・ドキドキしてもらえると嬉しいです。

PROFILE

12月31日生まれ。広島県出身。「ガールズ&パンツァー」ではテレビシリーズのシリーズ構成と脚本、劇場版と最終章では脚本を担当。主な代表作に「けいおん!」、「のんのんびより」、「ハイスクール・フリート」などがある。



……カノ感がありながらも、後半の橋になっ……」（吉田）



ボイ……ぜし……



「サメさんチーム」に関しては……りました」（吉田）

第7回

ライバルチーム研究

今回からは、戦車道のプロリーグ化を目指して、20年ぶりに復活した第41回無限軌道杯に参戦する高校を紹介。全国大会優勝校である大洗女子学園と1回戦で当たることとなったBC自由学園にスポットをあてていこう。

BC自由学園

BC Freedom High School

岡山県津山市を陸上の拠点とするＢＣ自由学園は、同市にあったＢＣ高校と岡山市にあった自由学園が統合されて誕生した。

もともと、両校はいずれも山梨にあるマジノ女学院の分校筋として設立された学園。中高一貫の「お嬢様学校」であった自由学園と庶民的なＢＣ高校という、まったく異なる校風の両校が新たな学園艦の建造に合わせて統合された結果、学園内でも派閥争いが連綿と続いている。現在では、受験をせずに入学した中高一貫の「エスカレーター組」と、高校受験を経て入学した結果、冷遇されている「受験入学組」という学園内格差が顕在化。立場上優遇されるエスカレーター組に対して、受験入学組が状況改善を訴えるなど、派閥争いが激化している。

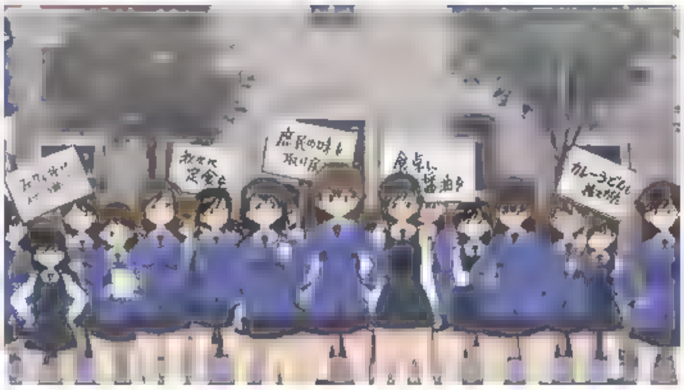
戦車道においても、エスカレーター組の父兄による経済的な援助がなされているようで、チーム内でも派閥が存在している状況である。その一方で、フランス戦車特有の機動性を活かした戦法を得意とした強豪校として、かつては戦車道全国大会においてベスト4の常連校としても知られていた。しかし、かつての強豪校も近年では他校の成長の著しさによって、緒戦敗退という状況も続いていた。第41回無限軌道杯においては、強豪校という復権を勝ち取るべく戦いに臨んでいる。

校風

フランスでワインの醸造を学んだ人物が学園の創始者であるマジノ女学院の分校筋ということから、「マナーを重んじ、礼儀正しいことを尊重する」という校風も同校によく似ていると言われている。その一方で、学園艦内は派閥争いが続いており、左舷側がエスカレーター組、右舷側が受験入学組に別れる形で生徒同士も日々衝突が続いている。



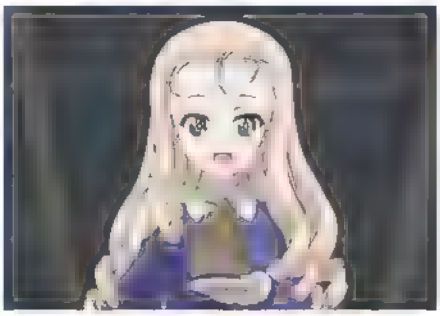
本家のマジノ女学院と同様に、フランスと提携しているということもあり、学園艦内の街並みや使用している一般車両などもフランスのものが多いが、こうした高級志向に対しても受験入学組の反発は強いようだ。



学園艦内は、裕福な良家の子女であり、経済的に恵まれたエスカレーター組を中心とした運営がなされている。それは、一般家庭出身の受験入学組にとっては大きな反発の原因になっているのだ。



フランス発祥のケーキやフランス料理など、食事に関しても高級なものが多く嗜好されており、これもエスカレーター組を基準にしたものが多い。

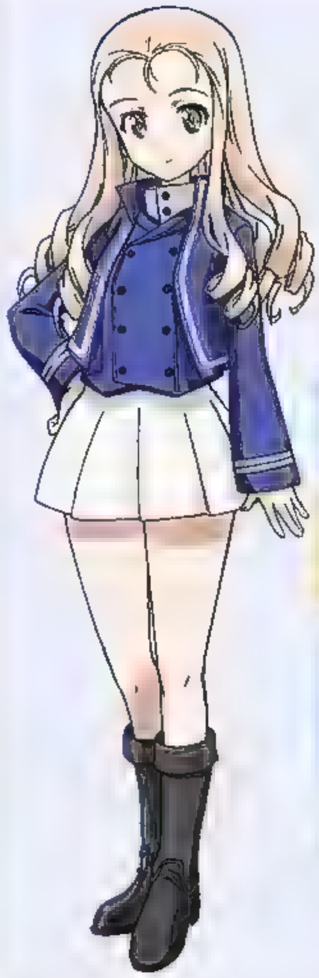




フランスとの提携校らしく、戦車道の試合中のヒマ潰しには、フランス発祥の球技であるペタンクに興じている様子も目撃されている。

マリー

BC自由学園戦車道チームの隊長。押田らエスカレーター組のチームメンバーからは「マリー様」と呼ばれるほどのカリスマ性を持つ存在。彼女自身は学園内での派閥争いには興味がなく、ちょっとおっとりしたマイペースな性格に見えながらも、戦車道の試合においては高い指揮能力を発揮する。







軽量・小型であるルノーFTに車長として搭乗。アクティブに動きはしないものの、チームが窮地に陥れば、愛用する扇子を手に鮮やかな指揮を行う。

BC自由学園 キーパーソン

BC自由学園は、戦車道においてもエスカレーター組がイニシアティブを握っている。隊長を務めるのは、エスカレーター組の中でも一目置かれる存在であるマリー。そして、彼女を補佐する形でエスカレーター組と受験入学組を代表して、押田と安藤の2人が副隊長的な立場に立つという、他の高校ではあまりみない1トップ2サポートというキーパーソンでチームは運営されている。

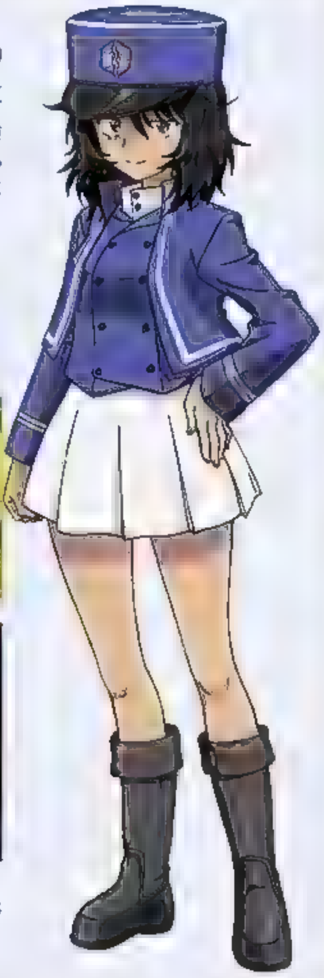
チームのトップを優遇されるエスカレーター組だけで構成するのではなく、受験入学組からも採用することで、ある意味チーム的なバランスがとられている。しかし、その一方でそれぞれの派閥同士のリーダー的な存在が同様の立場で発言するため、チーム内で意見が分かれることも多く、チームワークに大きな影響が出るだろうと分析されがちだ。彼女たちが、自分たちの主張を優先するのか、それともチームの勝利を優先するのかによって、戦局は大きく変化すると思われる。

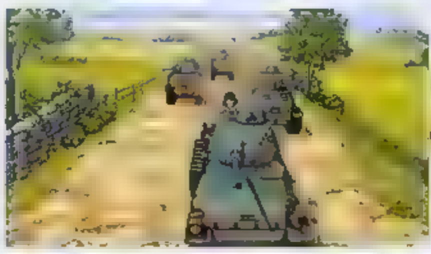


大学選抜に選ばれたアズミもBC自由学園の出身。彼女のような優秀な選手を送り出していることから、学園としての力が低くないことが分かる。

安藤

戦車道チームに所属する受験入学組のリーダー的存在。受験戦争を勝ち抜いていないお嬢様気質のエスカレーター組に対しては、批判的な態度を取っている。戦車道の試合に挑むにあたっても、フラッグ車をエスカレーター組が担うことに反発。試合前から押田と激しい言い争いをしていたが、それは大洗女子学園の裏をかくための芝居だった。







S35に車長として乗り込み、受験入学組を指揮。チームの作戦を成功させるべく、偵察として背後を移動していたアヒルさんチームの車輌を翻弄する。

押田

戦車道チームにおいて、エスカレーター組のリーダーとして行動し、マリーを恭しくサポートしている。お嬢様が多いエスカレーター組の中で目立つほどの強気な性格をもち、言動がやや荒っぽい。受験入学組の安藤とは、顔を合わせるたびに言い合いをしていたが、実はそれも作戦のうちだった。







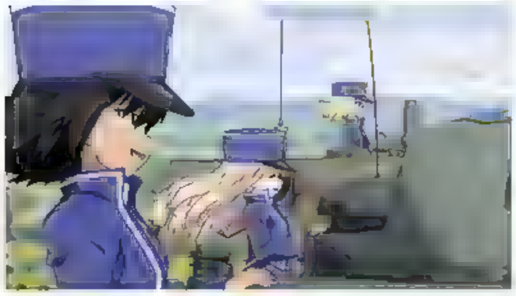
ARL44に搭乗し、エスカレーター組の部隊を率いて行動。マリーの指揮に従って、偵察に出たレオポンさんチームを引きつけるべく、陽動砲撃を展開した。

BC自由学園 所有戦車

BC自由学園が使用したのは全てフランスの戦車で、その歴史的必然性から「名機揃いだけど大して強くない」ラインナップとなっている。フランスは第一次世界大戦中から戦車の独自開発／生産に踏み切っており、第二次世界大戦の直前には生産数でもソ連に次ぐ世界第二位。設計もその時代の最先端で、輸出にも積極的な「戦車大国」だった。ところが第二次世界大戦が始まると、西方電撃戦でドイツに占領され、その開発は大幅に停滞してしまったのだ。結果として当時のフランス軍戦車は「第二次世界大戦後期の基準ではいかんせん古い」車輌ばかり。これではドイツ重戦車のような力押しはできるはずもなく、マリーたちも奇策を用いて戦いに臨まざるを得なかったのだろう。



2人乗りの軽戦車から90mm砲装備の重戦車まで、BC自由学園の布陣は実に多彩。だが裏を返せば、定形的な作戦は実行不可能で、戦車個々の実力も少々心もとない。



仲間割れを装って敵の油断を誘うという手の込んだ策を弄したものの大洗女子の奇策で頓挫。真っ向勝負ではどんな戦いを見せてくれるのか、大いに楽しみだ！

ルノーFT（FT-17）

第一次世界大戦後期の1918年にデビューした軽戦車。当時主流だった箱型戦車を指揮する、小型快速で視界の広い車輌として、フランスの自動車メーカー・ルノー社が開発した。その設計は先進性の塊で、乗員を熱と騒音から開放する戦闘室と機関室の隔壁や、優れた機動性と乗り心地を実現したボギー式サスペンションを備え、史上初めて全周旋回砲塔を搭載。今日まで続く戦車のフォーマットを決定付けた「近代戦車の祖」として知られている。さすがに第二次世界大戦では、戦車戦など望むべくもないほど陳腐化していたが、2000輌を保有していた母国フランスをはじめ、多くの国で歩兵支援に用いられた。



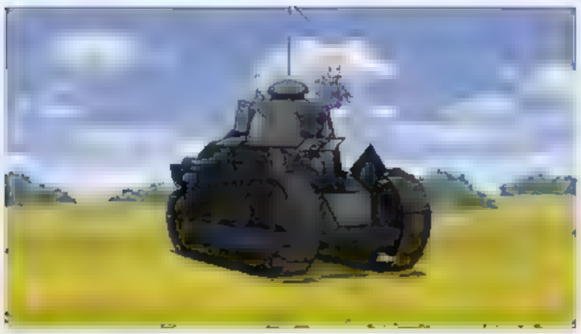
旋回砲塔を備えた雄姿はなるほど戦車っぽいが、車体後端には塹壕を乗り越えるためのソリを備え、設計思想の古さが窺える。乗員はたったの2名。砲塔の後方には開くと車長の椅子代わりにもなるハッチが存在する。





SPEC

国籍:フランス　製造:ルノー他　乗員:2名　重量:6.7t　全長 5.00m　全幅:1.74m　全高:2.14m　最高速度20km/h（路上）、7.6 km/h（不整地）　主砲:37mm砲SA18　装甲:6～22mm　総生産数:3728輌以上



日式の指揮用車輌だけに、敵戦車との撃ち合いなどもってのほか！マリー車も戦闘には一切加わらず、大洗女子の油断を誘い、罠にはまった姿を「高みの見物」するのに徹していた。





S35

「歩兵支援用」という旧態依然としたコンセプトから脱し、満を持して開発した「騎兵戦車」。騎兵さながらの突破／浸透戦術を主眼に開発されており、優れた快速性と航続距離、当時の敵戦車を撃破可能な47mm砲の火力、そして避弾経始を取り入れた装甲を併せ持つ。結果今日では「30年代最良の戦車」と評する声も少なくないのだが、一方でハッチの多さによる防御力の低さや、1人乗りでキューポラに車長ハッチがない砲塔など、設計は依然、問題山積。ボルトの破断で車体がバラバラになるなど工業力の不足も露呈し、当のフランス陸軍からは「欠陥品」呼ばわりされるという憂き目を見ている。

SPEC
国籍：フランス　製造 ソミュア　乗員．3名　重量 19.5t　全長 5.38m　全幅 2.12m　全高 2.62m　最高速度 40.7km/h（路上）、32.2km/h（不整地）　主砲 47mm砲SA Me35　装甲 20~56mm　総生産数：430輌（試作車含む）



快速性に優れる戦車だけに、BC自由学園の車輌も、自動車部がノルチューンした大洗女子の八九式をきりきり舞いさせる走りっぷり！ 見事に敵を誘引し、もろい木橋の上に釘付けにした。



ARL44

第二次世界大戦中、ドイツに占領されたフランス国内で秘密裏に開発されたという、異例の経歴を持つ重戦車。当初は75mm砲搭載の30t級というコンセプトだったが、独ソの重戦車が猛威を振るう現状を鑑みて、90mm砲を備えた50t級の戦車へと生まれ変わっている。ただ、純フランス製にこだわって自国の旧型戦車のみを参考にしたためか、増加した重量を支えるサスペンションは貧弱で、機動性も信頼性も劣悪。開発も遅々として進まず、試作車輌の完成は戦後となってしまった。それでも国威発揚と戦車開発の遅れを取り戻すために、1949年から60輌が生産されたが、わずか数年で退役している。

SPEC
国籍．フランス　製造 ARL　乗員．5名　重量 50t　全長 10.52m　全幅 3.40m　全高．3.20m　最高速度．37km/h（路上）、25km/h（不整地）　主砲：90mm砲DCA45　装甲．50~120mm　総生産数：60輌



設計には多々問題があるものの、90mm砲の火力と最大120mmの装甲は十分な脅威！ 大洗女子の戦車を橋上に釘付けにする作戦も、ARL44の打撃力ありきと言えるだろう。

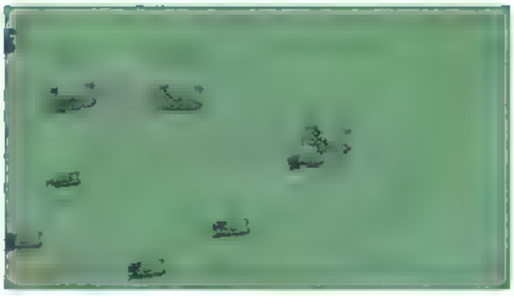
BC自由学園の戦術・戦法の傾向

BC自由学園は、軽量で小型のFT-17をフラッグ車とし、機動性の高いS35と攻撃力と防御力を持つARL44を編成することで、攻守においてチームとしてのバランスが取られている。しかし、前回の優勝校である大洗女子学園に対しては、車輌的な面で完全な優位に立つというものではないため、より確実に勝利するために学園を挙げての大がかりな作戦を行った。

大洗女子学園は事前に対戦校にスパイを送り込んで情報を収集し、綿密な作戦を立てるという形で強豪校を打ち破ってきた。その「持たざる者だからこその作戦」に対し、BC自由学園は「スパイされること」を逆手に取った策を展開する。かねてから学園内格差が存在し、派閥争いが続いているという自校のイメージを強調。チームワークが悪い学園であるという印象を強固なものとさせる情報を大洗女子学園のスパイに伝えることで、その油断を誘ったのだ。

この「チームワークが悪い」という印象をより強固なものとすべく、試合開始前から作戦を開始。集合地点に戦車で向かう際には、その様子がライブ中継されることを見越して、小競り合いをしてみせた。さらに、試合開始後はエスカレーター組と受験入学組は連携が取れていないかのような別行動をとった。この作戦は功を奏し、大洗女子学園の主力を防御が手薄になる橋の上に誘い出すことに成功。その後別方向から、十字砲火的に橋を破壊しながら車輌本体にも攻撃を仕掛けることで全国大会優勝校を窮地に追いやった。

この作戦は、もう一歩のところで大洗女子学園の新たな戦力であるMk.IV戦車を使った奇策によって打ち破られてしまうものの、お嬢様学校とは思えぬ大胆かつ大がかりな作戦を練り、戦車の移動方向や攻撃位置など高い戦術を披露。そこからは、彼女たちの再び強豪校へと踊り出ようとする、見た目とは裏腹の執念を感じることができる戦いとなっている。



自分たちの仲の悪さを強く印象付けるために、試合開始前に小競り合いをするなどかなり徹底されていた。



対戦開始前の顔合わせではマリーが挨拶を拒否し、それを窘めることから再び小競り合いを行うなど、全員が一丸となって作戦を展開していたようにも見える。



「仲が悪いから連携はしてこないだろう」と思い込ませるべく、試合開始後もわざと二手に分かれてそれぞれが独自に行動しているように見せかける。



大洗女子学園が誘いに乗ったことを確認すると、連携の良さを発揮。それぞれ狙い撃ちしやすい位置への移動を開始する。



防御が甘くなる橋を通って、敵の主力が自軍のフラッグ車を目指して移動するという状況を作る目的は成功。分断して移動したエスカ…ター組と受験入学組が気付かれずに好位置に場所を取るなど、戦略的な戦いの運び方はあなどれないチームであったことが分かる。その一方で、作戦をスムーズに成功させたもののツメの甘さからか、大洗女子学園を攻めきれなかったという印象も残る。

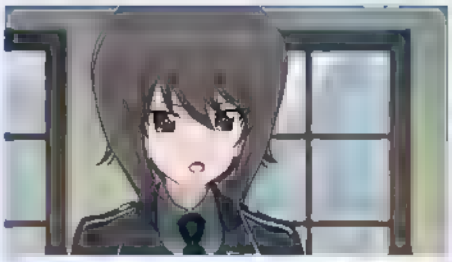




無限軌道杯　参加注目校の動向

「戦車道全国高校生大会(以下、全国大会)」は年に1度の開催であり、戦車道に力を入れる日本全国の各高校は、全国大会以外では練習試合やエキシビションマッチなどで腕を振るうほかなかった。しかし、20年ぶりに復活した「無限軌道杯」は、「戦車道全国高校生大会」以外でも全力で試合をすることができる大会であるため、雪辱に燃える各高校が次々と参加を表明。「打倒、大洗女子学園」を胸に戦いに臨んでいる。

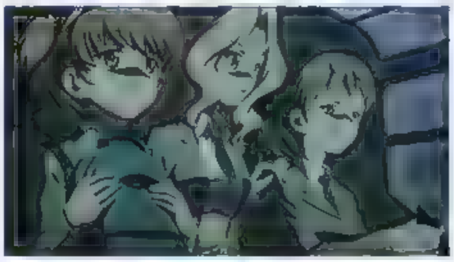
とは言え、冬季大会という季節的なタイミングから、卒業を控える3年生にとってはその後の進路や進学の問題から、全国大会の参加時とは大会に向ける意識や状況が大きく異なる。すでに引退した者、最後の大会に熱意を込める者と、その思いはそれぞれ違っていることだろう。ここでは、全国大会に出場し、注目すべき活躍をした名門・強豪校が、現在どのような状況にあり、それぞれどんな思いで無限軌道杯に参加しようとしているのかを紹介していこう。





黒森峰女学園

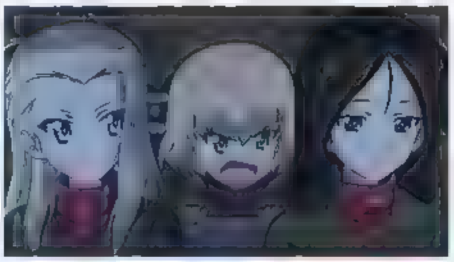
全国大会9連覇の後、第62回、第63回大会にて2年連続準優勝に留まってしまった黒森峰女学園。これまでチームを率いてきた隊長の西住まほは進学のためにドイツに留学中。その後を引き継いだ逸見エリカが隊長に就任しており、無限軌道杯は、新体制で臨むことになる。





サンダース大学付属高校

黒森峰、聖グロリアーナ、プラウダと全国大会4強と言われながらも、やや後塵を拝している印象のあるサンダース大学付属高校。隊長のケイは卒業を控えるが、同校の大学への進学がきまっているためか大会へ参加し、全国大会1回戦敗退の雪辱を果たして優勝を狙う。





プラウダ高校

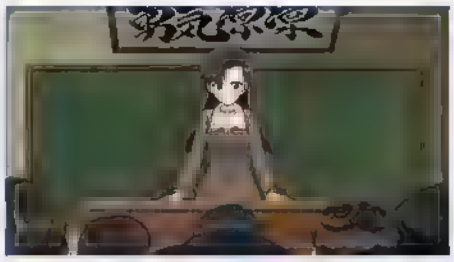
全国大会の2連覇を大洗女子学園に阻まれたプラウダ高校。隊長であるカチューシャ、副隊長のノンナも卒業後にはロシアへの留学を希望しており、やはり最後の大会となる。無限軌道杯は冬季大会ということもあり、自分たちの得意なフィールドで全国優勝に返り咲くべく参戦。





聖グロリアーナ女学院

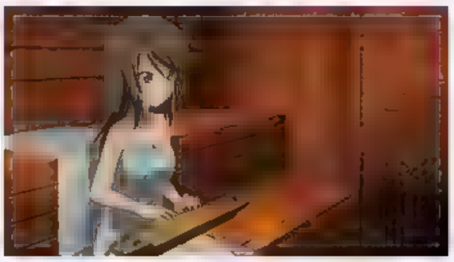
大洗女子学園には練習試合で勝利したものの、第63回大会では準決勝において黒森峰女学園に敗退。再戦は叶わなかった。隊長のダージリンは、卒業後イギリスへの留学が決まっているため、最後の公式大会に出場。その野望はやはり大洗女子学園を倒しての念願の全国制覇にあると思われる。





知波単学園

脆弱な戦車と突撃精神の強さから、どうしても大会前半での敗退が多い知波単学園。しかし、エキシビションマッチや大学選抜との戦いにおいて、大洗女子学園と共闘してきた経緯があり、彼女たちも経験値を積み重ねているため、どのような成長を遂げているのかが気になるところだ。

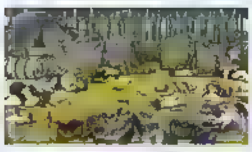




継続高校

冬季大会において未知数な存在である継続高校。プラウダ高校と同じく雪上での戦いを得意としているため、冬季大会となる無限軌道杯ではベールに包まれている実力を発揮するのではないかと思われるが、その戦力やメンバーなど不明な部分が多い。強豪校ではないが、目が離せない存在だ。





アンツィオ高校

強豪校に比べるとやや評価が低くも、優勝校となった大洗女子学園と好勝負を繰り広げて印象を残したアンツィオ高校。卒業間近の隊長であるアンチョビが指揮する形で大会への参加を決定。強豪校を相手にどこまで食らいついていくのか、その動向に注目したい。

頑張ってます！チョイだしメカ紹介

ガルパンではお馴染みとなった、画面にちょっとだけ登場するマニアックなメカニックたち。もちろん、ついにスタートした最終章の第1話でもそんなチョイだしメカが多数登場。ここでは、各メカをクローズアップして紹介していこう。



ゴリアテ

第二次世界大戦時にドイツ軍が使用していた有線式の小型無人戦車。爆薬を積んで敵基地や車輌を破壊する使い捨て兵器として運用された。大洗女子学園では、無線誘導式のものが戦車を探すサーチ車輌として使用されている。



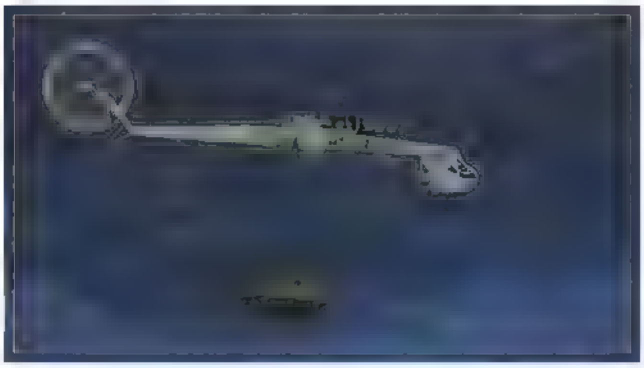
阻塞気球

低空の飛行機からの攻撃を妨害する防空気球。第二次世界大戦の頃から世界各国で使用されている。劇中では大洗女子学園内の情報を生徒に伝えるための広報用バルーンの役目を担い、側面には電光掲示板が配置されている。



NKL-16

第二次世界大戦時にソ連軍が使用していたアエロサン(プロペラ推進式スノーモービル)。その高い雪上機動力は大きく評価された。劇中ではプラウダ高校の雪上での移動用車輌として登場している。



CH-54

１９６０年代から９０年代にかけてアメリカ陸軍が車輌や武装の移動、墜落機の回収などに使用した双発型クレーンヘリコプター。劇中ではサンダース大学付属高校が所有し、シャーマン・ファイアフライの移送に使われている。



BA-10

第二次世界大戦時に、ソ連軍が使用していた装甲車。冬戦争においてフィンランド軍に多数鹵獲されている。劇中では継続高校の車輌として、ロウリュ（フィンランド式サウナ)の施設横に止まっている姿が登場する。



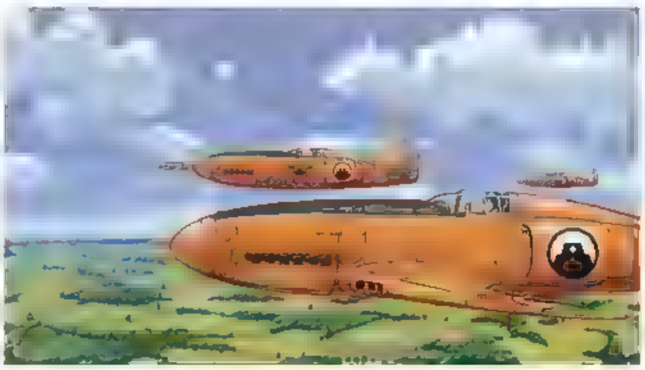
ブレゲー G.11E

第二次世界大戦後に１機だけ生産された、二重反転式ローターを持つフランスの実験型ヘリコプター。BC自由学園内での移動用として使われており、優花里が潜入時に搭乗していた。



プジョー・ヴォーグ

フランスのプジョー社が製造・販売していたモペット(ペダル付きのオートバイ)。いわゆる原付バイクであり、フランス国内ではメジャーな乗り物として使用されている。BC自由学園内でも日常の足として使われているようだ。



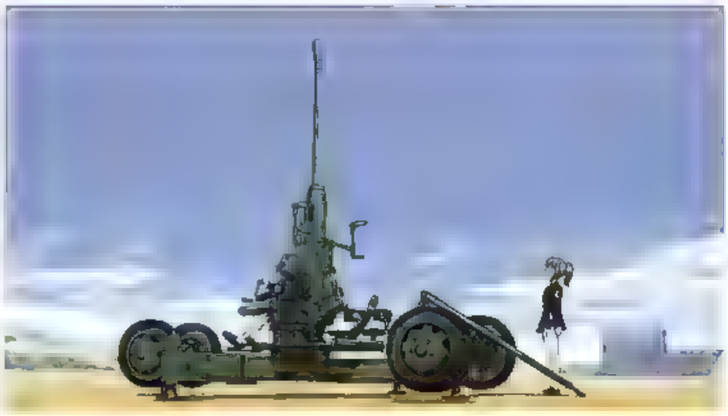
研三

第二次世界大戦時に日本陸軍が高速戦闘機を生み出すために制作した、高速研究機。「研究用三号機」を縮めて研三と呼ばれている。劇中では無限軌道杯の開幕セレモニー時に曲技飛行する形で登場する。



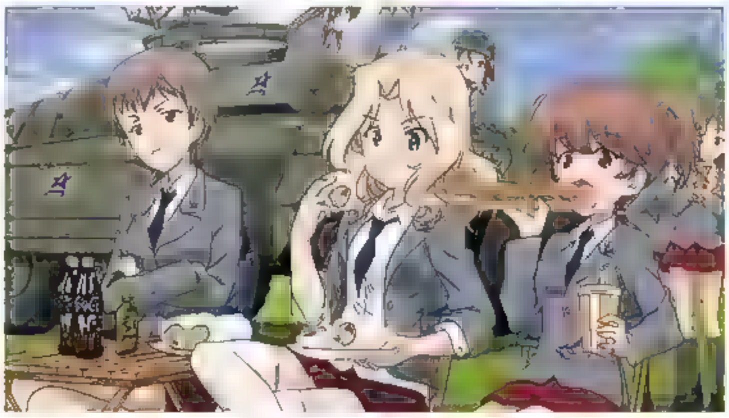
二式複座戦闘機 屠龍／銀河

屠龍（画面左端）は、第二次世界大戦時に陸軍航空隊用として爆撃機の随伴などを目的に開発された双発型の戦闘機。銀河は海軍の要望で開発された双発型の爆撃機。無限軌道杯では試合の観測用として飛行している。



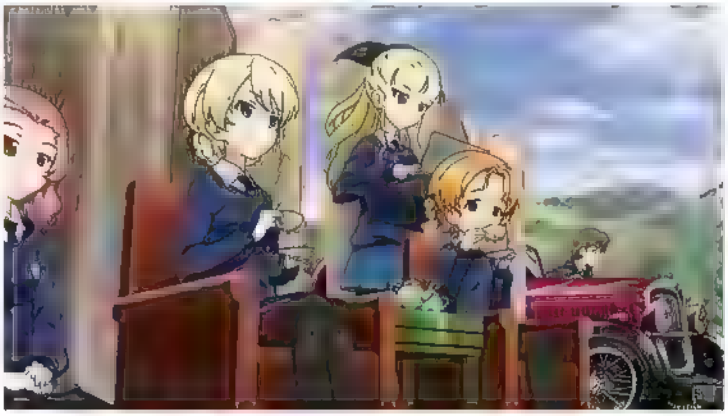
ボフォース 40mm 機関砲

第二次世界大戦時にスウェーデンのボフォース社が開発した対空機関砲。その性能の高さから、連合国、枢軸国の両方で使用されていた。無限軌道杯では、大会開催を知らせる祝砲発射役を担っている。



M20 装甲車

第二次世界大戦時に運用されたアメリカ陸軍使用のＭ８装甲車の発展型の車輌。警察用の装甲車としても使われ、陸上自衛隊にも供与されていた。サンダース大学付属高校が無限軌道杯の試合観戦時に使用している。



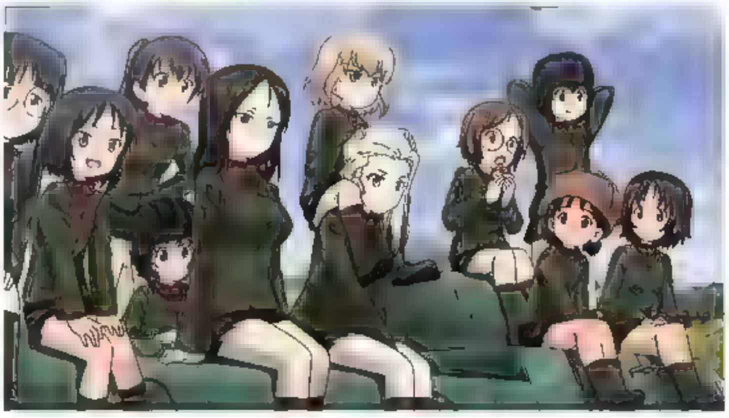
ライレー ナインファルコン

イギリスの老舗自動車メーカー・ライレー社が送り出した自動車。第二次世界大戦以前の設計となるクラッシクカーであり、「ファルコン」はやや高級なモデル。聖グロリアーナ女学院が試合観戦時に乗ってきたもの。



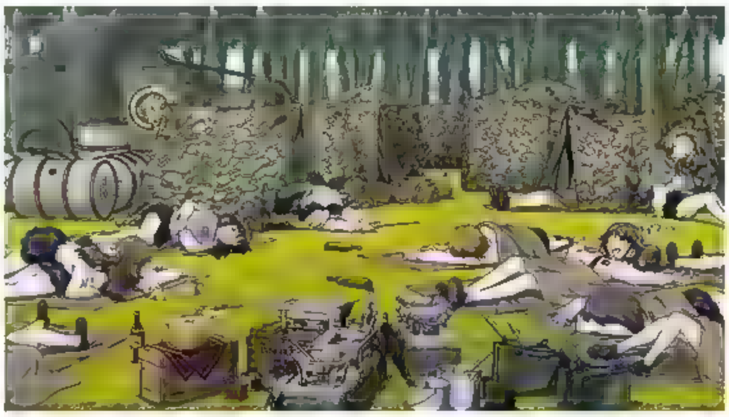
ポルトルカ高所作業車

第二次世界大戦を中心に使用されたソ連の軍用トラック・ポルトルカを改良し、高所作業用の荷台を取り付けたタイプ。劇場版に引き続き、継続高校が試合観戦用として使用している。



BTR-70

１９７０年代にソ連が採用した装甲兵員輸送車。８輪駆動の車輌で乗員２名に加え９名の兵士を運ぶことができる。無限軌道杯では、プラウダ高校が試合観戦時に使用している。



ランチア IZM

第一次世界大戦時にイタリアがＩＺトラックを改良して製造した４輪装甲車で、性能も高かったため第二次世界大戦時まで運用されていた。劇中ではアンツィオ高校が無限軌道杯の試合観戦用に使用している。

第9回 不肖・秋山優花里の戦車講座



AIは戦車の夢を見るのか?
けっこう多い無人戦車たち

無人偵察機やロボット戦車など、各国で盛んに研究開発が進められ、目覚ましい進化を遂げている無人化技術。その歴史の始まりをご紹介します!

戦車をリモコンで動かそう!

みなさんお久しぶりです! 無限軌道杯に合わせて戦車講座も復活! おまけに大洗女子学園に新たな戦車「Mk.Ⅳ」が加わって、嬉しさ一杯の秋山優花里です!

さて今回は「Mk.Ⅳ」を見つけてくれたリモコン戦車「ゴリアテ」に感謝の意味を込めて、無人で動く戦車たちをご紹介したいと思います。

そもそも戦車をリモート・コントロール(遠隔操縦)するアイデアは、1895年、イタリアでマルコーニ殿が無線通信の実験に成功したことから始まります。ケーブルや伝書鳩に頼らずに、遠方に情報伝達ができる画期的な発明に世界中が注目! 同時に多くの科学者が「無線を使えば人が乗らなくても乗物を操縦できるんじゃないか?」と考え、無線操縦の研究が始まりました。

最初は水上のボートを動かすことから始まった研究でしたが、1920年、アメリカでは排水量1万トンを越える戦艦「アイオワ」を動かすまでに発展します。巨大な戦艦を無線操縦して、射撃の目標にした訳です。これは便利! と世界中の海軍も無線操縦を導入。日本でも排水量2万トン超の戦艦「摂津」が無人の標的艦に改造されました。海の場合、平面で障害物が無いので見通しも良く実用化が早かったのですね。

もちろん、陸上でも無線操縦の研究は進んでいました。地雷原やトーチカを爆破する危険な任務に無人戦車は最適です! しかし海とは違い、陸では地形の凸凹に加え、森や建物など障害物も多く実用化は難航しました。

先進のソビエト、テレタンク

この分野で実用化が早かったのはソビエトです! 第1回の「空挺戦車」でもご紹介しましたが、革命初期のソビエトでは自由闊達で先進的な研究が進んでいました。早くも1930年にはマリー殿の愛車「ルノーFT」を使った研究がスタート。1932年には無線操縦の「T-26」が試作されます!

この時母体になった「T-26」は、イギリスの「ビッカース6トン戦車」をベースにした重量約9.4トンの戦車。最初に無線操縦に改造されたのは双砲塔のタイプで、私の大好きなポーランドの「7TP」の兄弟みたいな戦車です。ただ実用化されたのは単砲塔に機関銃と火炎放射器を搭載したタイプでした。

さて、この無人戦車は無線操縦される「TT-26」と、有人の司令戦車「TU-26」の2輌で1セットを編成。「TT-26」は普段、人が乗り込んで運転しますが、戦場では無人とな

BIV

終戦時、英軍の車輌集積所の手前に置かれたボルクヴァルト社製B IV B型重爆薬運搬車。戦闘によるものか、前面装甲等に破損箇所が見られる。

写真提供:グランドパワー(ガリレオ出版)/写真解説:吉川和篤





T-26
石灰で冬期迷彩に塗られて有人操縦される、通常型のT-26軽戦車。手前が後期の46口径45mm戦車砲搭載型で奥が21口径37mm戦車砲搭載型。
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）
写真解説：吉川和篤

り、「TU-26」からの誘導で行動します。TVカメラも無い時代、人が見通せる距離じゃないと操縦ができなかったので、操縦者の安全を守るために司令専用の戦車も一緒に作ったのですね。

ソビエトはこの無人戦車で2個大隊を編成、1939年に行われたフィンランドとの冬戦争に投入します。しかし、フィンランドが要塞陣地を作って待ち構えていたカレリア地峡で大苦戦！ あまり活躍できませんでした。そして1941年から独ソ戦が始まると、ソビエトには無人戦車の開発を続ける余裕は無くなり、研究は止まってしまいました。残念です。

フランスの陸上魚雷

もちろん、ソビエト以外でも無人戦車の研究は行われていました。なかでもフランスはかなり熱心だったようです。第一次世界大戦での損害があまりに大きかったフランスは戦後、莫大な予算でマジノ要塞線を構築し、できるだけ兵士の損害を抑えようとしていました。そんなフランスには無人戦車が魅力的だったようですね。

まず1937年、フランス陸軍のポンメレット大尉が、履帯で動く無人車輌を開発します。爆薬を搭載したこの車輌は、相手陣地へ無線誘導され、目標にたどり着いたら自爆！ 自分もろとも目標を爆破します。

この無人戦車は「ポンメレットの車輌（Vehicule Pommelet）」の頭文字から「VP」と呼ばれましたが、目標まで接近し自爆する様子から「陸上魚雷」とも呼ばれたそうです。

さて、テストでも十分な成功を収めた「陸上魚雷」はフランス陸軍に正式採用されます。さらに1939年に第二次世界大戦が始まると、合計2000輌もの大量生産が計画されました。ところがご存じの通り、1940年6月にフランスはドイツに降伏。この時までに完成していた「陸上魚雷」は11輌だったそうです。

一方、フランスでは無線ではなく、有線誘導の無人戦車も作られていました。開発者は、履帯と車輪の両方で動く車輌「ハーフトラック」の発明者、アドルフ・ケグレス殿です。

彼はまだ技術的に未成熟な無線ではなく、確実に動く有線誘導の方が実用的と考え、小型の戦車を作ります。確かにケーブルの取り扱いは大変ですが、目の見える範囲で動かす分には有線誘導でも大丈夫です。ただ、ケグレス殿の無人戦車は、テスト中にフランスが降伏。試作車は秘密を守るためセーヌ河に沈められたそうです。

ドイツの巨人ゴリアテ

1940年6月、フランスを占領したドイツは、ケグレス殿の無人戦車を引き揚げ、技術を分析します。そうです！ これが最も有名な無人戦車「ゴリアテ」の始まりです！

「陸上魚雷」同様、自走する爆薬コンテナとも言える「ゴリアテ」、正式名「Sd.kfz.302」は、1942年、ドイツのボルクヴァルト社で生産が開始されました。重量約370kg、全長約1.5mの小さくて可愛い戦車です。しかし、その車体には60kgの爆薬を搭載していました。

赤黒青の3本のケーブルを車内のドラムに内蔵し、整地で1500m、不整地でも800mの距離を移動できました。これだけの距離を移動できれば、危険な地雷原やバリケードを安全に爆破できますよね。

1943年には少し車体を大きくし、爆弾搭載量も増した「303」タイプも開発。両者合わせて7500輌近くが生産され、各地で自爆、じゃなかった、活躍したと言われています。小型なので移動が簡単、有線誘導なので信頼性が高く使いやすかったんですね。

ちなみに「ゴリアテ」とは、旧約聖書に登場する巨漢のペリシテ人の名前で、古代イスラエルの英雄ダビデに倒されたとされています。重量190トン近い超重戦車に「マウス」と名付け、超小型戦車に巨人の名前をつけるドイツって面白いですよね〜。

さて、ドイツでは「ゴリアテ」以外にも様々な無人戦車を開発しています。あの履帯バイクとも言える「ケッテンクラート」を改造した中型の無線操縦車「シュプリンガー」。そして大型の「地雷除去車輌B」シリーズがあります。

「ゴリアテ」と同じボルクヴァルト社が開発したこの無人戦車は、初代はサイズこそ大きいですが、基本的には「ゴリアテ」同様の使い捨ての自走爆弾でした。

しかし4代目の「BⅣ」は、重爆薬運搬車輌と名前が変わり、繰り返し使用が可能になります。車体の全長は約3.6m。重量も約3.6トンと「ゴリアテ」に比べるとかなり大型です。そして車体前部の斜めのスペースに合計450～500kgの爆薬コンテナを搭載。目標に接近した所で爆薬を滑り落とします。爆薬は時限信管なので、「BⅣ」が後方の安全地帯に戻った所で爆発！ ドイツらしい凝った設計ですよね。

この「BⅣ」が投下する450kgの爆薬は非常に強力で、10m離れた対戦車砲陣地を完全に破壊したと伝えられています。このため「BⅣ」は有効な無人戦車として、各タイプ合わせて1000輌近くが生産されました。そしてソビエトの無人戦車同様、「BⅣ」を操縦するための司令車にはⅢ号戦車やⅢ号突撃砲、そしてティーガー戦車などが充てられ、幾つもの無線操縦戦車大隊が編成されました。

ただ、「BⅣ」を無線操縦するには、無線のチューニングが大変で、戦場までは操縦者が乗って移動。無人で動かすのには、出発前に5～6時間もの調整が必要だったそうです。この大変さも「ゴリアテ」が併用された理由なのでしょうね。

イギリス流の無人戦車

露仏独ときたら、イギリスを抜かす訳にはいきません。とは言っても、イギリスは無人戦車の開発にあまり熱心ではありませんでした。1935年に「エドワード計画」という研究もあったようですが、イギリスは第5回「工兵戦車」でもご紹介した通り、ノルマンディで活躍した〝ホバートの楽しい奴ら〟に代表される有人の工兵戦車を重視したのかもしれません。

しかし、そんなイギリスにも有名な無人戦車があります。それが「パンジャンドラム」です！

えっ？ アレは戦車じゃない？

それはその通りですが、「陸上魚雷」同様、障害物の爆破を目的とした車輌なので是非、仲間に入れてあげて下さい。確かに誘導が一切できないので「ゴリアテ」とはまったく違うコンセプトの車輌ですが、とっても魅力的な無人車輌だとは思いませんか？

さて、イギリス空軍のノイス大佐が提案した「パンジャンドラム」は大型の爆薬を搭載した筒の両端に鋼鉄製の巨大な車輪を取り付けた不思議な形。内燃エンジンは搭載せず、車輪の外周に付けた複数のロケットを発火させることで車輪を回転させようという凄いアイデアです。爆薬搭載

量はなんと1・8トン。「BⅣ」の約4倍！ この破壊力でドイツが大西洋の海岸に設置したコンクリート防壁を爆破し内陸への侵攻路を作る予定でした。

しかし車輪に付けたロケットはとっても不安定で、テストでは海岸の砂浜を真っ直ぐに進むことが一度もできませんでした。ここから「イギリスの大失敗作」と言われてしまっています。

ただ、不思議なことに最初の試験は、秘密兵器なのに海水浴が楽しめる海岸／しかも人出が多い9月初頭に行われています。ここから「パンジャンドラム」は、ドイツを惑わすための壮大な欺瞞作戦の一環として作られたのではないか？ といった説があります。

確かにドイツ側が上陸地点だと信じ込んでいたパ・ド・カレー付近は防備が堅く、コンクリート障害が一杯。ここに上陸するには「パンジャンドラム」のような装備も必要そうですよね。これが本当だとすれば、さすがイギリス！と言わざるを得ません。

日本にもあった無人戦車

さて日本も無線通信には早くから注目、マルコーニ殿の発明から6年後の明治34年（1901年）には性能は悪かったものの無線装置の国産化に成功します！ 1905年の日本海海戦が、仮想巡洋艦「信濃丸」からの無電から始まったのは有名な話ですよね。

一方、無人戦車の研究も1926年に始まり、1930年には陸軍の長山少佐が無人戦車を完成させます。アメリカのフォード製F型トラクターをベースに作られたこの無人戦車は、全長約3・5m、重量約2・5トン。完成後、日比谷公園で無線運転が一般公開され話題となります。これは世界的に見ても非常に早い無人戦車の実現であります！

ただやはり、この小型戦車では不整地での行動は難しく、実用化に向けてバレー部のみなさんが愛する「八九式中戦車」を無線操縦できるように改造しましたが、あまり上手くいかなかったそうです。

しかし、研究は続き、1934年頃から「い号」兵器と呼ばれる無人戦車システムの開発が始まります。い号とは有線（いうせん）の頭文字。ケグレス殿同様に、日本でも信頼性の高い有線誘導を選んだ訳ですね。

「い号」兵器の中心は「九七式装甲作業機」という無人戦車で、全長約2・1・8mの「電動車 甲」と全長約2・5mの「乙」の2タイプがありました。「甲」には、アタッチメントとして爆薬筒を鉄条網に押し込んでいく〝1号作業機〟、もしくは小型爆薬を押し出す〝2号作業機〟のどちらかが搭載できます。より大型の「乙」には、300kgの大型爆薬を押し出せる〝3号作業機〟が搭載可能でした。

これらの無人戦車は、後方の「高圧発電車」からケーブルで電気の供給を受けモーターで移動。有線誘導で鉄条網やトーチカに近づき爆破します。第6回の「日本の工兵戦車」でもご紹介しましたが、日本は工兵車輌の開発に本当に熱心だったんですね。使い捨てではなく、何度も利用可能な車輌を開発したのもとっても日本らしいです！

さて、この「い号」システムは対ソビエト戦の切り札として満州で大事に温存されていましたが、1945年、本土決戦に備えて日本に移動。そのまま終戦を迎え、全て破棄されてしまいました。

現代の無人戦車

第一次世界大戦終了後も技術の発展に合わせ無人戦車は進化。単なる危険物処理だけではなく様々なタイプが作られます。

1980年代には六輪の装甲車輌に機関銃と40ミリ擲弾銃を搭載した回転砲塔を持つロボット戦車「プラウラー」がベンチャー企業によって開発されました。

そして21世紀に入ると、空では遠隔操縦される無人の偵察機や攻撃機が実用化。陸でも歩兵の荷物を運ぶ4本脚のロボットや自動運転のロボット戦車が多数登場しています。これらはまだ実用化にはほど遠いですが、完全無人化されたロボット戦車が登場するのもそう遠くないかもしれませんね。

いかがだったでしょうか？「ゴリアテ」を初めとする無人戦車の挑戦の歴史。ご理解頂けましたでしょうか？ それではまた、次回の戦車講座でお会いしましょう！



長山号

昭和５年（1930年）、日比谷公園で公開実験された無線操縦戦車「長山号」。車体は新設計だが、フォード製トラクターの足まわりや履帯を流用している。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）
写真解説：吉川和篤



夢のリモコン戦車
← リモコンメカがあったら誰でもやってみたい、秘密基地からの出動の図。実際にあったノルマンディーのゴリアテ格納壕写真を基に描いてみました。
おひさしぶり
マンガ的表現
え＆文/モリナガ・ヨウ
つくっちゃったんだ！
60kg爆薬
ケーブルの長さは800m
◎ゴリアテ ⇒ 軽爆薬運搬車輌…というか自走爆弾？
・ボルクヴァルト BIV 重爆薬運搬車輌
無線で目標まで進み、爆薬コンテナを投棄して戻って来る（またコンテナを積み込み出動する。車体もろとも爆発することもできる…）
もちろん
無線で進んで
がばっ
近くまで人が乗って運転してやってくるから操縦席がついています
500kg爆薬
本体は安全距離まで下がる。
この時代はモニターカメラ、なんて気の効いたモノはないから、見える所で操作する。いろいろ危ない。誘導タンクも作られる。
戦車の中から操作
あまり近くだと大爆発に巻き込まれる
コントローラー
・中型爆薬運搬車輌 シュプリンガー（『ノミ』!?）
爆弾は300kgくらい
……
有名なケッテンクラート改造
…この手のモノは寿命が短いので、ありもの流用で何とかしました。
・パンジャドラム 鋼鉄製の巨大車輪にロケット筒をたくさんつけて転がっていく！
初期型
ロケットを増加したタイプ
まともに進みませんっ
失敗。
どいつもこいつも移動が爆弾じゃないか！
ロボット戦車 プラウラー
映画にも出たよ
まん中に1.8t(!)の爆薬を仕込み砂浜走って海岸要塞を粉砕するのだ。

今回の案内人 **鈴木貴昭**



PROFILE アニメ脚本家、著述家。ミリタリー・マニアとして知られ、『ガルパン』など多くの作品で文芸設定や軍事考証を担当。豊富な知識を活かし、ミリタリートーク・ラジオ番組『さくら兵団Vステ駐屯地』のキャストも務めている。

世界のミリタリー博物館探訪記

MILITARY MUSEUMS AROUND THE WORLD

『ガルパン』で戦車の虜になったという人は多いが、ホンモノを見たことのある人は、まだまだ少ないのでは？ そこで今回から、世界のリアル戦車を訪ねる博物館紀行をお届け！ まずはその醍醐味を、監修の鈴木貴昭氏に聞いた。

監督がルノーFTを出すと決めた瞬間 実車があるポーランドに行きました！

杉山 最終章では新しい戦車がたくさん登場しますが、最初に出てきたのがフランス戦車だったのは何故なんでしょう？

鈴木 単純に、戦車を自国開発していた国が、フランスしか残っていなかったということです。一応ルノーB1が出てはいましたけど、あまり目立っていませんでしたし。それと、ルノーFTは近代戦車の祖として、水島(努)監督としても避けては通れないというのがあったんだと思います。

杉山 では、そのフランス戦車の特徴とは？

鈴木 まずひと目で分かるのは「丸い！」というか、アヒルっぽいことですね(笑)。監督は「ひと目で他と違う戦車」がお好きですから、その意味でもフランス戦車はうってつけだったのでしょう。

杉山 丸いということは、車体も砲塔も鋳造で作ってるわけですから、やはりフランスの工業力はそれなりに高かったんでしょうか？

鈴木 それもありますが、国民性もあるのかもしれません。ルノーFTはもちろん、S35が開発された1935年ですら、戦車の形の機能的な正解は出ていませんでしたから、国ごとのデザイナーの美意識が入り込む余地も大きかったというわけです。これはドイツの戦車を見るとわかりやすいですよね。ティーガーⅠはカクカクしてたのに、T-34ショック後にはパンターが生まれていますから。ましてフランスは第二次世界大戦ですぐドイツに占領されちゃいましたんで、お国柄の良く出た戦車しか残っていなかった。やはり国ごとの美意識が色濃い頃のデザインで比べるなら、重厚長大でゴチック調なのがドイツ戦車で、フランス戦車は大地に根を張る柔らかさ、よく分からんのがイギリス戦車、と言えるんじゃないでしょうか(笑)。

杉山 でも、フランス戦車が他国の戦車に影響を与えた部分もあるんですよね？

鈴木 ええ。ルノーFTは大量に輸出され、購入した多くの国が旋回砲塔なんかをパクってます。

杉山 フランス戦車エライ！と言えるわけですね。ただその割に、実はフランス戦車って、今回の最終章第1話で初めて知ったとか、動いてる映像を初めて観た！という方も多いのでは？

鈴木 映画でも背景に1輌だけ止まってるのが映ってるとかせいぜいその程度で、動いてる映像はほとんどありませんね。というか、そもそもARL44なんて、ソミュール戦車博物館の館長さんすら詳細を知らなかったぐらいですから。ドイツ占領下でこっそり作ってた戦車で、軍事評論家の岡部いさく先生に言わせれば「埼玉で作ったパンター戦車」みたいな代物です(笑)。

杉山 なのに戦後のフランス陸軍は、コレじゃなく鹵獲したドイツのパンターとか使ってたんですよね？ せっかく作ったのに。

鈴木 だって使えなかったんだもん！(笑)足回りはどう見てもシャールのまんまで、走ったらすぐ故障しますからね。自国でメンテも出来たドイツ戦車のほうが使い勝手が良かったんでしょう。

杉山 そのぐらいレアな戦車も出てきて、最終章第1話は戦車マニア的にも眼福映像に仕上がったと思うんですが(笑)、おかげで当初は資料がなくて困りました。結局、鈴木さんにお力添え頂いたわけですが、どうやって資料を集められたんです？

鈴木 まずルノーFTに関しては、監督が出すと決めた瞬間、稼動状態の実車があるポーランドに行きました。しかも所蔵しているポーランド軍事技術博物館の館長さんが「15人集めてくれたら貸し切りにするし、ガソリン代だけ出してくれれば戦車乗り放題だよ」と言ってくださったので、私と声優の中村桜さんのラジオ番組『さくら兵団Vステ駐屯地』のリスナーさんに「ちょっとみなさん、戦車乗りに行きましょう！」と呼びかけて、ツアーを敢行しています。この時は女性もお二人来てくださったんですよ。ノンナのコスプレでT-34の前に立ちたいっていう方と、単純に「戦車乗りたい！」って方が。

杉山 博物館でコスプレですか!?

鈴木 それはもう、貸し切りですから！(笑)ルノーFTは館長さんが、中村さんを乗せて実際に操縦してくださいましたし、T-34やT-55、T-72も乗り放題の触り放題でした。T-55は10kgある訓練用の砲弾で装填も体験させて頂きまして、中村さんが潰れてましたね。あとは砲身の掃除を体験したり、T-34のエンジンかけたり……。

杉山 燃料タンクに砂糖入れたり(笑)。

鈴木 いや、それでエンジンをダメにするの、よく戦車退治の秘策みたいに言われますけど、実際見てみたらとても不可能でしたよ。装甲と同

見て、触って、エンジン音を聞くとまったく違う世界が拓けてきます

じ厚さのボルト止めブロックとかを外してからじゃないと入れられないから、絶対ムリ！

杉山 さすがに明白な弱点が、丸出しなワケはありませんでしたか。やはり写真や文献で知ってるつもりになっていても、本物を見ないと分からないことは多いものなんですね。

鈴木 それはもう！ たぶん一番誤解されているのが、実は戦車は「速い」ということでしょうね。たったの時速15kmって思いがちですが、あれだけの重量物がそんな速度で迫ってくると、メッチャ速く感じるんです。陸上自衛隊武器学校の八九式も「速っー！」って思いましたし。

杉山 目線の違いもありますよね。プラモデルだと俯瞰で見下ろしますけど、実際に近くで見上げてみると、これが時速15kmで迫って来たら怖いよね！って。正直「コレで戦争しちゃいけないわー」って、素直に思うぐらい。


写真提供：鈴木貴昭

鈴木 逆に戦車の側からすると、車長席からの目線がすごく高くて、視界がまったく違います。こういうのは、乗ってみたり触ってみないと分からないですね。

杉山 乗ってみると言えば、同じく監修をお願いしている田村尚也さんは、「ルノーFTはドライビング・ポジションがいい」と仰ってましたね。

鈴木 そうなんですよ！ シートは革ベルトに腰を押し付けるだけなんですが、操縦するときの姿勢に無理がなくて。「さすが自動車王国の戦車ー」って。乗った人はみんな言ってました。反面、砲塔はメッチャ狭いです。設計思想として、自動車の延長として、運転し易いというのはどういうことかっていうのが、まずあったんでしょうね。

杉山 フランス戦車は砲塔後方の車長ハッチが、開けると腰掛けになるぐらいですものね。

鈴木 ルノーFTはただ開くだけですが、S35になるとハッチがスライドして開くんで、ちゃんと平らで座り心地がいいという。このあたりもお国柄というか、「フランス人はナニ考えてたんだろう？」って部分ですよね（笑）。その一方で、砲塔の上の一見キューポラに見えるところはただのベンチレーターで、開けるとモーターが入ってます。鹵獲したドイツ軍も「こんなん使えねぇー」って、キューポラに改造していたそうです。これがあるせいで、余計に狭かったんですよ。

杉山 まさに「乗ってみて初めて分かる」ですね。思えば『ガルパン』が始まったばかりの頃は、映像や写真資料を集め、プラモデルも参考にして、どうにかこうにか作ってたじゃないですか。それが最近は、こうして実車取材ができる環境が、ちょこっと出てきましたよね。作品が長く続いて、取材費も少しは捻出できるようになったという事情もありますが、やっぱりそれ以上に、みんながガマンできなくなってきたっていうのも、大きいような気がしませんか？

鈴木 そうですね。加えて言えば、待遇の変化も大きいと思います。今までは海外の博物館に「女の子が戦車に乗るアニメーションに協力して欲しい」って言ってもね、「ナニ言ってんだ!?」と（笑）。

杉山 悪意はないんだけど、さすがにプライオリティは低くならざるを得なかったんでしょうね。

鈴木 ええ。ところが最近は、フィンランドのパロラ戦車博物館なんかにも日本人がBT－42を見にたくさんやって来ていて、あちらのスタッフも「こんなムーミンしかいないような所に、どうして？」って思ったらしいんです。同じ事はポーランドでも言われまして、ある時期を境に日本からファンが山ほど押しかけて、地元民でも滅多に行かない博物館にお金を落とすようになった。これは一体何事かと、彼らが話題にしてる作品を観てみたら、戦車の描写も「しっかりしてるじゃないか！」と。結果『ガルパン』自体の知名度が海外でも上がってきていて、取材協力などもスムーズになっているわけです。これって、かつて国内で起こっていたものと同じ現象が、いま海外で起きているんですよね。日本でも最初の頃は「女子高生が戦車乗るとかナニ言ってんだ!?」って、誰も相手にしてくれませんでしたから（笑）。

杉山 実際ボービントンのスタッフに『ガルパン』のBDを渡したら、すごく喜んでくれました。その遠因が現地を訪れたファンの行動力だというのは本当に感謝ですし、素直に凄いと思いますね。

鈴木 日本のアニメファンって、お金は持ってるし時間も頑張れば作れますから、あと誰かが手引きしてあげれば、喜んで来てくれるんですよね。だって『ガルパン』のファンなら、「戦車に乗ってスクラップの自動車を轢き潰すツアーがある」って聞けば、そりゃ行きたいでしょ!?（笑） あちらとしても維持費は大変なんで、「どんどん来てください」って言われてますし、私も日本旅行さんと一緒にツアーを企画しています。

杉山 やはり、本物ならではの凄味や怖さ、意外な発見というのは、想像力だけでは絶対に補完し切れませんからね。『ガルパン』がそれを体験する契機となってくれれば嬉しい限りです。

鈴木 ホント、なんだかんだ言って百聞は一見にしかずなんですよ。実際に動いてる戦車を見て、触って、エンジン音を聞くと、まったく違う世界が拓けてきますから、機会があれば、みなさんもぜひ足を運んで頂きたいです。



聞き手
杉山 潔

PROFILE ご存知『ガルパン』プロデューサー。自他共に認めるM4シャーマンのマニアだが、自衛隊のM4A3E8以外は、『ガルパン』を通じて訪れた英ボービントン戦車博物館で初対面。改めて「実物を見る感慨」を味わったとか。

お気に入りの博物館はココだ！

ボービントン戦車博物館 The Tank Museum



タンクミュージアムの入り口。戦車が出迎えていて、否が応でもテンションがあがる。因みにこの入り口の道は意外と分かりにくく、自分が車で行く場合は要注意。後ろにちらっとみえる建物がバックヤード。

世界的に著名なボービントン戦車博物館（現在の名前は「The Tank Museum」で地名は付いていない）は、イギリス南西部のドーセット州に位置していて、第一次世界大戦から現代までの世界各国の戦車約 300 輌を集めた一大戦車博物館である。元々が第一次世界大戦の際の戦車訓練基地であり、フランスに送られた車輌が戦後戻って来た場所でもある。そこでビンテージ物の戦車を走行させるイベントがあると知ったため、これ幸いと自腹で取材に行って来た。アクタスさんから預かった 360 度カメラを持って。



世界で唯一の動くティーガーI！

これを見にボービントンに行ったと言っても過言ではない、あの有名なティーガー 131 号車。世界で唯一走行可能なティーガーI（但しエンジンはティーガーIIのマイバッハ HL230）。アリーナをデモ走行後、目の前にまるでプラモのパッケージのようなアングルで停車したのに、もう超感動。



たまたま陣取った場所が良すぎて、こんな風にティーガーIが正面から大接近して来るのをずっと見られただけではなく、目の前で旋回して止まるという。素晴らしすぎるロケーション。

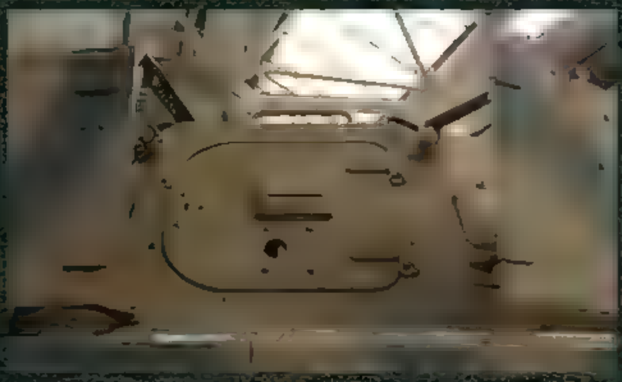
劇中さながらの Ⅳ号H型（D型改）



同車輌の前面装甲。後から追加した状況が見て取れる。



もうひとつボービントンで見たかった、あんこうチームのⅣ号戦車の参考にもなった、IV号D型をH型相当に改造した車輌。元々は戦車操縦訓練学校にあった車輌とも言われていて、同様の改造を施された車輌の当時の写真が残っている。



砲塔側面ハッチ部分は、シュルツェンが外されている。当時の写真では、この部分は開閉式になっていた模様で、実際にこの写真でも蝶番部分が左右に残っている。

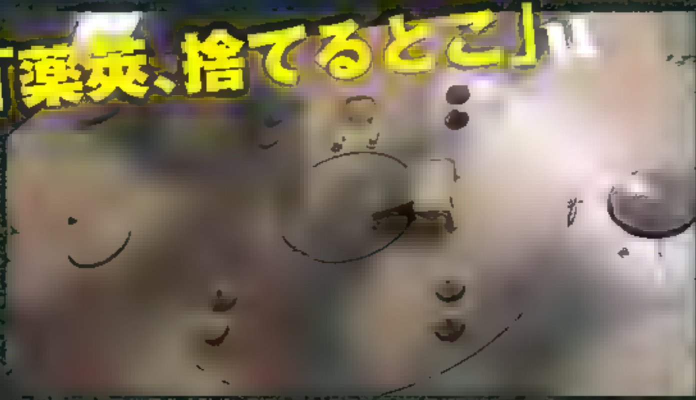


まるで子供のおもちゃ箱のようなバックヤード（の一部）。展示されている車輌も物凄い数だが、他にもたくさんの車輌が置いてあり、しかも極力稼働状態にレストアしてある。結構な珍品が無造作に転がっているのにも驚愕。



ローズヒップも乗っているクルセイダー巡航戦車。特に他の車輌との違いになっていた、赤く塗られた直接照準装置もこんな風に見ることができる。

「薬莢、捨てるとこ」



今回新しく作られたティーガーコレクション。ティーガーシリーズだけが集められた場所で、ティーガーII（ポルシェ砲塔、ヘンシェル砲塔）、ヤクトティーガー、エレファントが展示されている。なお、ガイドさん曰く、ドイツにシュトルムティーガーの貸し出しを依頼した所、イギリスのEU離脱によってキャンセルになったとか。



何故かフィンランド軍仕様のT-26も置いてある。博物館同士で戦車のやり取りをしているから、恐らくその一環だと思われる。

文・鈴木貴昭

陸海空から要塞、戦跡まで回っています

海外で軍事関係の場所に行ったのは、アメリカ、ドイツ、フランス、ベルギー、イタリア、チェコ、ポーランド、フィンランド、ロシア、シンガポール、インドネシア、パラオ、台湾でしょうか。内容は陸海空問わず、更に博物館だけではなく城郭や要塞、戦跡まで、時代も古代ローマから現代までと何でもあり。イベントのゲストとかで呼ばれても、ちょっとでも暇があれば軍事博物館系に足を延ばしています。ただ見るよりも、アメリカのプレーン・オブ・フェイムで乗ったP-51とかポーランドで乗ったT-34とか、実際に動いているものに乗れるのは感慨深いですね。

ポーランド 軍事技術博物館

Muzeum Polskiej Techniki Wojskowej



博物館入り口から見た建物。いかにも要塞といった感じの赤レンガの建物。左側が要塞の正面で、ビスワ川に沿って北上して来る勢力を食い止めるように作られている。

ワルシャワ郊外にある首都防衛用の要塞群のひとつを改造して作られた博物館で、城マニアとしてはこの建物と敷地だけでも大興奮である。今でも外周は堀が残っており、一部を道路が通っているが、形状はしっかり残っている。ここは日本からツアーを組んで博物館を貸し切りにして貰って、二度訪問している。貸し切りなので、戦車見放題触り放題乗り放題だが、見せて貰えるものが多すぎて＆やらせて貰えることが多すぎて、実は未だに全てを見てはいない。



ズラリと並ぶT-34は圧巻！

入ってすぐにあるT-34の群れ。溶接の雑な戦時中車輌と、綺麗な戦後車輌の両方がある。今回、手前のハッチが開いている車輌を動かしてくれて、あちこちのハッチを開けさせて貰ったり、中に自由に入ったりできた。



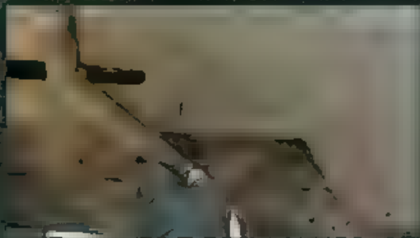
実際に動いた様子。排気管から煙が出ていて、地面に履帯の跡が付いているのが分かる。こっそりとこの車輌に日本から持って行ったプラウダ校のマークを貼ったのは内緒だ。因みに車用のマグネットシートで作ったが、しっかりくっついた。



ISU-122 上から見た車列。これが触り放題の上に乗り放題である。後ろの方ではツアー参加者が車輌のメンテナンス体験やオイル交換、主砲の掃除体験などをやっている。



ISU-122 の尾栓を開いて中を覗いた様子。レストア中の車輌だが、しっかりとグリスアップされて主砲も稼働する。



こうやってトリガーを引くのも可能で、実際どのように動くのか、体験できる。ガルパンに関わってからは、取材の際にトリガー位置と動きを確かめることがとても多くなった。



砲塔の上に出て、カチューシャの気分を味わうことも可能。



T-34 の操縦席。このように中を自由に動き回ってどこでも撮影ができる。



T-34 のオイルゲージチェック体験。装甲を外し燃料タンクの蓋を開けて、中に入っているゲージを確認させて貰える。戦車の燃料タンクは開けるのも一苦労だった。

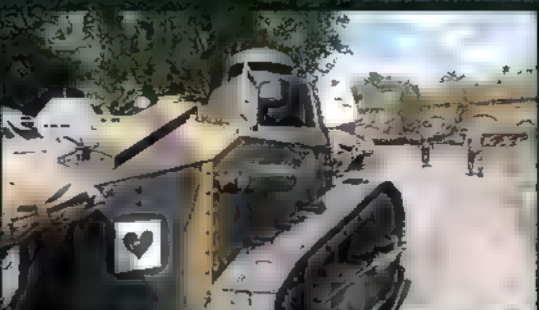
乗って触って体験できる!



T-55 の 100mm 砲弾の装填体験。大体 15kg ちょいある砲弾だが、意外と何とかなる。但し砲弾ラックから一発抜いて装填、また元に戻しただけだから、これをあの狭い車輌の中で何度もやるのは重労働なのは確か。以後の戦車が自動装填になるのもよく分かる。



このような牽引風景も普通に見られる。牽引ワイヤーを実際にどのようにかけて、どんな風に牽引するかを当たり前のように見せてくれる。実にオープンな博物館であった。



取材の本来の目的、稼働状態までにレストアされたルノー FT。大変に貴重な車輌(関係者曰くポーランドの至宝)を動かしてくれて、しかも中に入ることまで。因みにこの砲塔内にいるのは、佐々木あけび役の中村桜さん。実に羨ましい。



ポーランドの至宝FT-17



西住みほ役 渕上 舞 INTERVIEW

ガルパン5周年&最終章スタートへの思い

ガルパン5周年に合わせていよいよスタートした最終章。主人公の西住みほ役として、ある意味作品の顔として歩み続けてきた渕上舞さんは、ガルパン5周年と新たにスタートした最終章にどんな感慨を抱いているのか? その思いを語ってもらった。

PROFILE

5月28日生まれ。福岡県出身。m&i所属。主な出演作に「蒼き鋼のアルペジオ -アルス・ノヴァ-」、「ドキドキ!プリキュア」、「暗殺教室」、「刀使ノ巫女」などがある。2018年1月には1stアルバム「Fly High Myway!」をリリースし、アーティストデビューを飾った。

みほと付き合っていく時間が空くことは無かったです

―ガルパンが5周年を迎えたわけですが、まずは率直な感想をお聞かせください。

渕上 本当にあっという間でした。ガルパンは、5年間ずっとアニメをやっていたわけではないんですよね。最初のテレビ放送は全12話なので、すごく短い期間だったんですが、その後OVAや劇場版だけでなく、ドラマCDやゲームなどでみほを演じる機会をいただけて、みほと付き合っていく時間がこの5年で空くことはなかったという印象です。こんな作品に巡り会えることはそんなにないと思っているので、これまで付き合って来れたこと、そしてまだ終わっていないという事実が本当に幸せだと感じています。

―ガルパンでは5年の間にいろんなイベントに参加されていますね。

渕上 初めてのイベントはテレビ放送直前の先行上映会でした。当日は駅が浸水してしまうくらいの大雨で、現在でもあんこうチームのキャスト陣の中で語り継がれるイベントのひとつですね。私自身も主人公としてアニメに関わるのが初めてで、こうしたイベントで自分が何かを話したり、人前に立つことも慣れていなかったんです。だから発言も支離滅裂で、自分で何を言っているのか分からなくなるくらい緊張していました。落ちついていられない時間だったという記憶はあるんですが、ステージの景色やイベントの雰囲気なんかは全然覚えていないんです。そんなに大事なイベントなのに覚えていないということは、それだけ頭の中が真っ白だったんだろうなと。

―その後、大洗でのあんこう祭に出られたんですね。

渕上 あの時は、あんこう祭の前日に大洗に入って、大洗ホテルで記者発表をしたのを覚えています。ああいうのも経験が無かったので「テレビの人みたいだな」って思いました(笑)。その時があんこうチームのみんなで行く、初めての大洗だったのではないかと思います。大洗は初めてにも関わらずすごく空気が温かいとか、ここで生まれ育ったわけではないけど実家に帰ってきたような安心感があるというような話をしたのを覚えています。ちょうど大洗の町が出てくる第4話の放送直後くらいのタイミングだったので、あんこう祭にもすごくたくさんの方が集まってくださってビックリしました。そもそも町のお祭りで盛り上がる1日ではあったんですが、私たちのステージにあれだけの人が集まってくれたことに驚きましたね。あそこから今の盛り上がりに繋がったのは間違いないと思います。

―その後、大洗には何度も行かれることになりましたね。

渕上 もう何回行ったか覚えていないくらいです。最近も3月の海楽フェスタと11月のあんこう祭の1年に2回は必ず行かせていただいているんですが、テレビシリーズをやっている頃は月に1回は大洗に行っていました。

―ガルパンをきっかけに大洗を好きになってリピートして行っているファンも多いですが、何度も行かれているので、その気持ちに共感されますか?

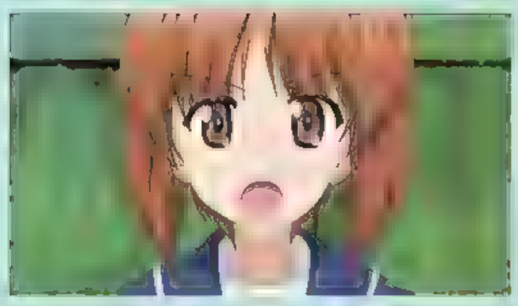
渕上 分かりますね。大洗の空気感をみなさんが楽しんでいるんだろうなと思います。ガルパンのファンの方に直接話を聞いたりすると、みなさんがかなりの頻度で大洗に行かれているみたいで。イベントが無い時に行かれて、現地を見て楽しんでいるということは、本当に町を気に入ってくれているんだなと感じます。こうして、ひとつの町を好きになってもらえる機会に携わるようなこともなかなかないので嬉しいですね。

―地元の方々がガルパンを日常のひとつとして捉えていて、町の雰囲気もどんどん変わってきているようにも感じますね。

渕上 本当にそうだと思います。すごく不思議な感覚ではありますね。だからこそ、私自身も毎回行くのが楽しみで、仕事ではありますが、気分的には旅行に行く感覚です。すごく居心地がいい町ですよね。

―その後いろんなイベントに参加されたと思いますが、印象的なイベントはありますか?

渕上 北海道の自衛隊の車輌を見学させてもらうツアーと、富士の陸上自衛隊基地に行った際の、2度にわたって実際の戦車に乗れたことは、ガルパンに関わっているからこその体験でしたね。なかなか体験できることではないので、印象的で楽しかったです。実際に車長席





に立って、キューポラから顔を出しながら乗せていただいたんですが、思った以上にワイルドな乗り心地でした（笑）。アニメの中でみほもキューポラから身体を乗り出して指示をだしたりしていましたが、実際に乗ると砂挨がすごくて眼を開けていられなかったです。結構スピードもあるので、掴まっているのも必死で本当にジェットコースターに乗っているような気分でした。砂や土も飛んでくるので、顔も砂埃だらけになってしまって。女性ではなかなかこうした経験をすることはあまりないんじゃないでしょうか。

――戦車に乗った体験は、みほの演技になんらかの影響を与えることになりましたか？

渕上　体験したことで意識は変わりましたね。車長という役割は、それだけ危険で大変なことなんだなと自覚するようになりました。みほの演技に関しては、試合中は緊迫していてスピード感もあるので、どうしてもお芝居も必死になってしまうんです。しかも早口で尺に収めないといけないということもあって、つい頑張ってしまうと「落ちついた感じで演じてください」というディレクションが入りました。「落ちついて、焦らないで」とみほがよく言いますが、最初の頃に「そう言うからこそ、あなたが焦っていたら意味がないんです」ということを言っていただいたんです。実物の戦車に乗せてもらったことで、そうしたディレクションの意図を理解して、自覚できたという部分は大いにあったと思います。

――変わったところでは、レースの観戦ツアーもありましたね。

渕上　D-1のバスツアーですね。あのイベントは比較的密にファンの方と接することができました。移動時はファンの方とは別だったんですが、特典グッズのお渡し会もあり、専用の観戦スペースでファンのみなさんの近くで一緒に観戦することができたんです。その際にはマイクを通さずに直接お話しすることができて、楽しかったですね。私自身、レースを観に行くという機会も無かったですし、お客さんの中にもそういう方がたくさんいて、ガルパンを通して今回来たという方もいて、みんなで新鮮な体験ができたという印象があります。

――他に印象深いイベントはありますか？

渕上　比較的小さなイベントでもあるんですが、茨城県内のお店を回るインストアイベントをしたことがあるんです。その際に、初めて握手会をしました。トークショーをやり、お客さんはそんなにたくさんいたわけではないので、握手会ではちょっと余裕を持ってお話もできたかなと。それから、これもそこだけだったんですが『Enter Enter MISSION!』をひとりで歌わせてもらって。大きなイベントではなかったので、アットホームで温かかったです。今のガルパンの盛り上がっている状況もありがたいんですが、またそういうファンのみなさんと直接交流できるイベントがあったら嬉しいなと思いますね。

――話は変わって、ガルパンのアニメ本編について伺いたいと思います。テレビシリーズ、OVAと続き、集大成とも言える劇場版も作られたわけですが、劇場版で最後かなという感覚はありましたか？

渕上　私としては、まだまだやりそうだなという感じの方が強かったですね。劇場版のアフレコの時も「これで終わり」という感じが全然無かったですし、劇場版のすぐ後くらいにフワっと「続きがあるかも」と言われていたので、もうないのかな」という寂しさに襲われなかったんです。また、今後アニメが続くか判らなかったんですが、物語として消化しきれてないものがあるような気がしたんです。それこそみほのお母さんは、劇場版でのみほとまほの成果に対して認めている描写がありましたが、面と向かって打ち解けていない気がするので、個人的にはそのあたりが引っかかっていて。そこが描かれないまま、「もう終わりなのかな？」とぼんやりとした疑問がありましたし、私自身がいちファンとしてまだまだ彼女たちの姿を見ていきたいなと思っていたこともあり。それにはきっとバンダイビジュアルさんが応えてくれるはずだと信じていました（笑）。

――そうした思いを経ての最終章が始まるという話を聞いた感想はいかがでしたか？

ガルパンの思い出GALLERY

第16回　あんこう祭
（2012年11月18日）

大洗町の祭りであるあんこう祭にガルパンが初めて参加。渕上さんは前日の11月17日には大洗ホテルにて記者発表、そしてあんこう祭当日は、ラッピング電車のお披露目とステージイベントと多くの大役を果たした。あんこう祭は6万人が来場し、その後のガルパンの盛り上がりに欠かせないイベントとなった。











渕上　驚きよりも喜びが大きかったですね。まだまだガルパンとみほと付き合っていけるんだなって。またアニメーションでできるということは、私にとっても嬉しいことなので、いちファンとして楽しみだなというところがありました。でも、もっと短いものを想像していたので、全6話という構成には驚きました。

――改めて、最終章第1話の感想を聞かせてください。

渕上　私自身もまだ第1話の内容しか知らないんですが、久々に人間ドラマが濃く描かれていた回だったなと思いました。劇場版の最後の方はシリアスというか、切迫した空気の中での試合の描写というのが印象に残っていますし、テレビシリーズの方も後半はシリアスな展開が中心だったので、そうした雰囲気とは違う感じが印象的ですね。第1話ということで、キャラクタの会話で話が進んでいくところが、テレビシリーズの最初の方の雰囲気に戻ったという感じがしました。その一方で、キャラクターの顔つきがテレビシリーズの最初の頃とは違うところに、「これから最終章の第1話が始まるんだな」と気持ちが高まりました。

――キャラクターが劇場版を経た顔つきになっているということですね。

渕上　そうなんですよ。みんなちょっと自信がついていると思うんですよね。あれだけの勝利を勝ち取って、戦車を扱うことにも慣れて来ていると思うので、そういったところの自信が表情に出ているのかなと思っています。

――最終章でみほを演じるにあたって、意識が変わったところはありますか？

渕上　最近はみほを演じるにあたっては、余程技術的にできていないところや解釈を間違っているという部分以外はお任せしていただいているんですよね。そういう意味では、ナチュラルにやらさせていただいているというか。みほとして喋ることに関しても、難しい言葉にも慣れて、ちょっと自信を持てるようにはなってきました。ストーリーとしては、河嶋さんが隊長になっているので、作戦をみほから提案したり、後半の第一ラウンドが始まるところでは士気を高めるところで言葉を発したりはしていますが、副隊長としてサポートに回る新鮮さは感じていますね。ちょっと引いたところでの関わり方が、今までのみほにない役割かなと思っています。

――ストーリー面での驚きなどはありましたか？

渕上　あんこうチームが生徒会になるのは驚きでしたし、何より作品内で時間が進むとは思ってもいませんでした。生徒会が代わり、学年が変わる準備が描かれるということは、かなり大きい時間の進みですよね。そういう時間の進み方をガルパン最終章でやっていくんだなというのが感慨深いというか、どうなるのかなという若干の寂しさも垣間見えたりしましたね。

――テレビシリーズの時も、収録の都度、台本が渡されて演じるという流れだったんですね。

渕上　そうですね。ガルパンに関しては戦車の動きがメインということも多く、アフレコ時に全ての絵が揃っていない状況だったので、その仕上がりがなかなか想像することが難しかったですね。それこそ、アフレコの後にオンエアで「なるほど、こういうシーンだったのか」と改めて理解することも多くて、2度楽しい作品だったという思いはありますね。

――最終章の収録の雰囲気はいかがでしたか？

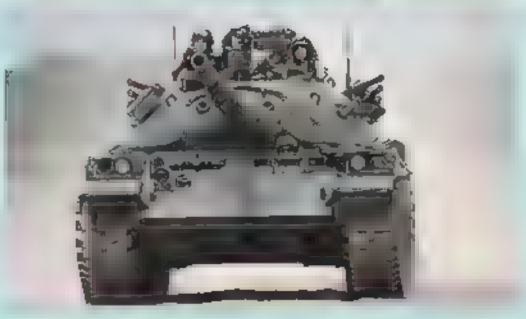
渕上　いつもと変わらず、人が多くて賑やかでしたが、5年という月日が経っているのでテレビシリーズの初期と比べると雰囲気は変わってきているという実感はあります。女性ばかりの収録で、ワイワイしているんですが、それでもみんな大人になって、それぞれ経験も積んで落ち付いてきているのかなと。それこそ、結婚されたり、出産されたりという方もいらっしゃるので、そういったところで会話の内容も変わってきていますしね。最近はお子さんの話もよく聞きますし。やはり、その変化がポイントかなと思います。

D1グランプリ応援ツアー
（2017年6月24日）

PACIFIC RACING TEAM がガルパンのラッピングが施されたレーシングカーで参戦する「全日本プロドリフト選手権」＝D1 グランプリを観戦するバスツアー。渕上さんはイベント参加特典のお渡し会に参加し、ファンと一緒にレースの観戦を楽しんだ。



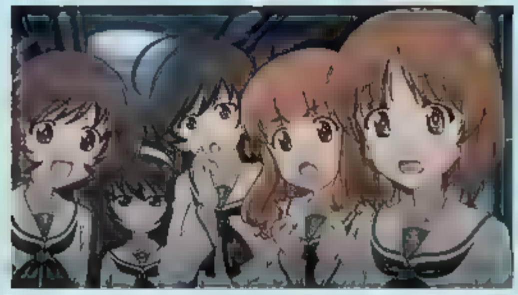




さんふらわあ北海道イベント
（2013年7月12日～15日）

大洗港から就航するフェリー「さんふらわあ」に乗って、北海道へ向かうツアーが開催。船内では、杉山プロデューサーと秋山優花里役の中上育実さんのトークショーが行われ、渕上さんは 13 日から合流。陸上自衛隊東千歳駐屯地で基地見学と戦車搭乗体験が行われ、渕上さんと中上さんは 90 式と 74 式戦車に搭乗した。





――最終章に関しては、今後どのような部分に期待されていますか？

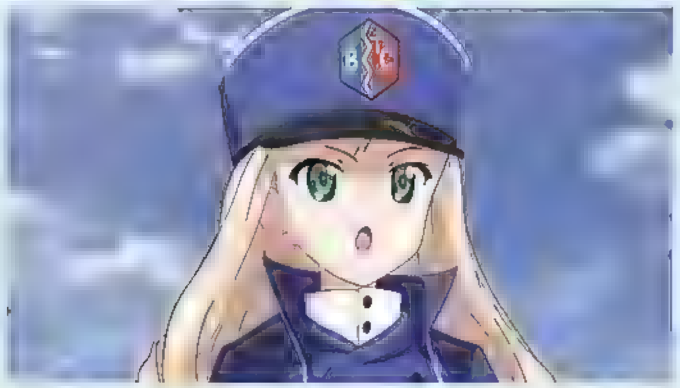
渕上　黒森峰のエリカさんが気になっています。ガルパンは嫌いになるキャラクターがいないって言われる中、エリカさんからは酷いことも言われているせいか、みほに気持ちが入ってしまって苦手だったんです。でも、触れ合ってみると憎め無さもあり、コミックスでエリカさんの活躍するお話（『ガールズ&パンツァー フェイズ エリカ』）を読んだところすごく興味が湧いたというか、気になる存在になってしまって。今回エリカさんは黒森峰の隊長になっているので、そこでどう大洗女子学園と関係するのかが楽しみです。これは、完全に私の趣味的な興味ですが、みなさんもこうしてそれぞれの趣味的な視点で、今後の展開を語り合って想像してくださるといいなと思います。残り5話で純粋にどうなるのかがとても楽しみですね。

――では最後に最終章の今後に向けた意気込みを聞かせてください。

渕上　ようやく第1話をみなさんのもとにお届けすることができました。ここから物語がまた始まっていくという刺激的な導入部だったと思います。大洗がピンチに陥って、これからもっと戦いも盛り上がっていくはずです。あと5話もあってラストまでどれくらいかかるのか分かりませんが（笑）、みなさん健康に気を付けて最後までお付き合いいただければと。気持ちとしては、10周年がガルパン最終章の大団円と重なるのがいいかなと思います。私も最後の最後までみほとして頑張って演じていきますので、みなさん一緒に楽しみましょう。よろしくお願いいたします！

最終章第1話 渕上 舞お気に入りシーン

ついに公開となった最終章第1話。本編を楽しんだ渕上さんが選んだお気に入りシーンを紹介。コメントと合わせて紹介していこう。



「新登場したキャラクターでは、マリーが好きですね。ビジュアルも言動も全てカワイイ。ああいうキャラクターはやったことがないので、別の作品などで演じる機会があれば楽しそうですね」（渕上）



「自動車部のポルシェティーガーがEPSを使って走るシーンは、アフレコではイメージが掴めなかったんですが、完成した映像を観て、そのスピード感にちょっと感動しました。本当に一瞬なんですけどカッコイイです」（渕上）

第18回　あんこう祭
（2014年11月16日）

ガルパンでは3回目の参加となった第18回あんこう祭。来場者数は前回に続いて10万人を突破。あんこう祭ではガルパンの重大発表が行われる場としてすっかり定着した。渕上さんは5年間すべてのあんこう祭に参加している。



大洗盆踊りの夕べ
（2013年8月11日）

大洗で行われた盆踊り大会に飛び入り参加し、「あんこう音頭 大洗盆踊りver.」を披露。この他にも海楽フェスタをはじめ、大洗で行われた大小さまざまなイベントや映像特典の撮影などで、大洗には何度も訪れている。



ガルパンインストアイベント
（2013年1月13日）

テレビシリーズ Blu-ray & DVD 第1巻の発売と第2巻の予約に合わせて、渕上さんが茨城県内のアニメショップを回ったインストアイベント。WonderGOO 守谷店 GOOst ではトークショーとさらに来場した150名のファンと握手会を行った。



PROJECT G
Supporters of Girls und Panzer

今回は、鹿島臨海鉄道株式会社の小松﨑 明さん、最終章第1話に登場したバー「どん底」のモデルとなった歌族ステージドルフィンの瀬川つよしさんに話を伺った。



小松﨑 明

こまつざき あきら ● 鹿島臨海鉄道株式会社　企画開発部

水戸駅から鹿島神宮駅を結ぶ臨海鉄道鹿島線の大洗駅にて、ガルパン関係の広報活動や企画業務を担当。大洗町商工会との連携なども行っている。ガルパン関連の業務は、2年前に前担当から引き継ぎ、大洗駅として作品と大洗町を盛り上げるべく業務を行っている。

取材協力から始まったガルパンとの関係

—ガルパンにはどのようなきっかけで関わられたのでしょうか？

小松﨑　アニメ本編にうちの駅舎や車両を出したいということで、放送開始前に取材の協力をしたんです。その後、看板の設置やラッピング車両を走らせたいという相談を受けて協力していったという感じですね。

—当時はガルパンがこんなに話題になるとは思っていなかったという感じですか？

小松﨑　そうですね。原作もない深夜アニメでしたし。話を持って来られた常盤(良彦)さんが熱心だったので、そこに乗ったという感じです。うちはノーリスクで、ラッピングもダメだったら剥がせばいいだけですから。そうした関わりから始まりましたが、今では一緒にガルパンを楽しんでいる感じになりましたね。

—作品をご覧になった感想はいかがでしたか？

小松﨑　私自身は当時担当ではなかったんですが、劇中に知り合いのお店が登場して、その忠実な描かれ方は面白いなと思いました。女子高生と戦車の組み合わせも「戦車道」と表現していてうまいこと考えるなと。

—ラッピング車両がデビューして、そこから本格的な協力をされたという感じですね。

小松﨑　そうですね。グッズに関しても、キーホルダーや缶バッチなど、うちは作るのが早かったです。さらに、駅のインフォメーションも2012年の年末年始限定でガルパン関連のものを展示した結果、大好評となりまして。それが現在の駅構内施設として続いています。

新たなラッピング列車 Ⅳ号車運行開始

—鹿島臨海鉄道さんと言えば、ラッピング電車ですが、ついにⅣ号車の運行が始まりましたね。大胆なデザインに驚いた人も多いのでは？

小松﨑　今までは車両にいろんなキャラクターを貼るような形だったんですが、今回は新たな試みとしてトリックアート的なものを取り入れています。ラッピングのイラストに関しては、どうしてもキャラクターが中心になりがちなので、Ⅳ号車を運行するにあたって今度は戦車をメインにできないかと思い、いろいろとデザイン的な相談をいたしました。その結果、Ⅳ号戦車がうちの車両を乗り越えて潰しているような感じの絵に仕上げていただきました。また、今回は内装も充実して欲しいとお願いしました。これまでは、ステッカーを制作しているフィールさんが持って来たものを貼っているだけだったんですが、専用のものを制作してもらっています。また、つり革の広告部分にも全てキャラクターのステッカーを貼っています。こちらも、フィールさんのご厚意で、大洗女子学園のキャラクター30種類が手摺りに貼られているので、今まで以上に楽しんでいただけそうです。今回は、ファンのみなさんがスポンサーという形で、2017年8月にラッピング列車協賛付き記念乗車券を発売させていただいて、その収益金で新しいラッピングが実現しています。車両には協賛いただいた方の名前も掲示させていただきました。

—ラッピング列車に関しては、車両の入れ替えがあったとも伺いました。

小松﨑　1号車に施されていたラッピングが対応年数を超えてしまったので、ラッピングを変更することでⅤ号車に生まれ変わっているんです。

桑名　ファンの方には、列車の車両番号から1号車がⅣ号車に変わったことを知った方がいて、ストーリー性を感じてSNSに書き込んだ方などもいらっしゃいましたね。

—キャラクターのイラストも最終章のものが多く使用されているのがポイントですね。

桑名　そうですね。さらに、今回は鹿島臨海鉄道として、あんこうチーム5人の描き下ろしのイラストも初めて依頼しました。こちらは駅構内にパネル、外に記念撮影用のパネルとして置かせていただいております。

小松﨑　せっかく描き下ろしということだったので、こちらでざっくりとした要望を出したのですが、予想以上のものを作っていただけました。

新ファンと地域のための鉄道会社としてのとりくみ

—あんこう祭に関してもお話を伺

プロジェクト
～ガルパンを支えた人びと～



取材協力から始まりましたが、今では一緒にガルパンを楽しんでいる感じになりましたね

いたいのですが、2017年は13万人の来場者ということで、いろいろと対策を練られたと伺いました。

小松崎　2016年のあんこう祭では、増便対応などもしたのですが、お客様の数に対応しきれず、乗れなかったという方が多かったんです。そうした事情から、次の海楽フェスタからもっと力を入れなければならないということで、朝の1本目から増結した車両を増やし、さらに移動に関しても水戸駅経由ではなく鹿島神宮方面から大洗に向かうルートや勝田駅からひたちなか海浜鉄道の湊線を使った移動のアナウンスを積極的に行うことで、今回は大きなトラブルもなく終了することができました。

桑名　水戸駅も鹿島神宮駅もうちはJRと繋がっているので、JRの方と綿密に打ち合わせをしました。水戸で乗り切れないお客様が駅に滞留すると他のお客様に迷惑がかかってしまいますから、JRさんも込みでシミュレーションをして、スムーズな乗車ができるよう対策を講じました。

小松崎　単線なので増発がなかなか難しいということもあり、最大4両までの増結に加えて、乗車人数の多い通勤車両をフル活用することで対応したという形ですね。

――最終章が公開となりましたが、反応はいかがですか？

桑名　描き下ろしのキャラクターの顔出しパネルを駅前に置いて、12月16日のⅣ号車出発式の朝に公開したところ、ものすごい反響をいただきました。正直、顔出しパネルはそんなに反応がないだろうと思っていたので、驚きましたね。

小松崎　ラッピング車両に描かれる最終章で初登場となるキャラクターに関しては、ネタバレになるかどうかというところで、いろいろと相談させていただきました。注目が大きいので、そういう部分では気を遣いましたね。

――今後はどのような取り組みを？

小松崎　今後もイベント時には増結、増発は対応していく予定です。グッズに関しては、ラッピング列車Ⅳ号車と最終章の公開を記念した乗車券、ラッピング列車の1号車から3号車の写真を掲載したクリアファイル、海楽フェスタから車両キーホルダーを発売するなど、ファンのみなさんに楽しんでいただけるようなグッズも充実していきます。また、キャラクターの絵柄が描かれた入場券スタンプは月替わりとなっていますので、大洗に来る際には大洗駅を利用していただければと思っております。



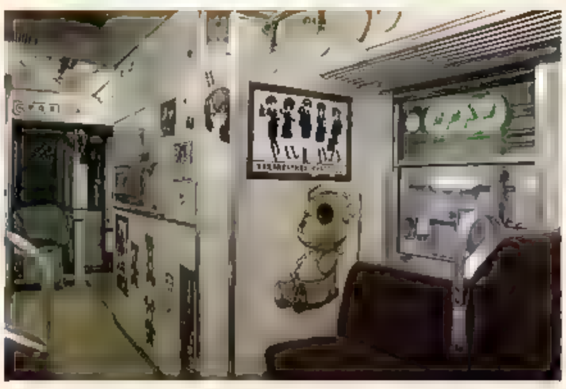
小松崎さんと一緒にガルパン関連の案件を担当する企画開発部の桑名秀明さんにも話を伺った。



大洗駅に設置されている、駅員の制服を着たあんこうチームのパネルは、描き下ろしとして描かれたもの。







2017年12月16日にお披露目されたガルパンラッピング列車Ⅳ号車。Ⅳ号戦車によって潰されたように見えるイラストを始め、サメさんチームなどの最終章に登場するキャラクターのイラストも配置。車両内部の隅々までガルパン一色で染められているのもポイントだ。



瀬川つよし

せがわつよし ◆ 歌族ステージ ドルフィン

『ガルパン』最終章で船舶科の「サメさんチーム」がたむろしていたバー、「どん底」。そのモデルとなったのが、大洗にある「歌族ステージ ドルフィン」だ。濃厚に漂う古き良き昭和の香りが、スタッフのあいだで話題となり、登場が決まったというカラオケバーである。その詳しい経緯とお店の魅力、そして「ガルパン」ファンとの交流について、ご店主である瀬川つよし氏に聞いた。

開店から48年！愛され続ける憩いの場

——瀬川さんのお店「ドルフィン」は、「昭和の味のするカラオケバー」として、『ガルパン 最終章』に登場するバー「どん底」のモデルになったそうですが、実際に、お店は昭和の頃から営まれているんですか？

瀬川　基本ひとりで切り盛りして、女の子に手伝ってもらうのは金曜と土曜だけだから、色気はないしね(笑)。そのかわり、音楽は必ず流してきました。昔はカラオケもなかったから、ジュークボックスを置いていてね。レコードが沢山入っていて、100円で好きな曲を3曲かけられる機械です。それが有線放送になり、昭和50年くらいからはカラオケが入って、いまは通信カラオケになっています。「お酒と音楽のある店」と言いますか、カラオケスタジオやスナックなんかが、いろいろ混ざってる感じでしょうか。

——それは、ご自身も音楽がお好きだったからですか？

瀬川　もちろん好きですし、僕は歌手としても活動しているんですよ。40年ほど前にワーナーからレコードを出していて、その後しばらくはお店に専念したんですけど、一昨年には日本クラウンからCDが発売されました。昔の曲を編曲し直して、再レコーディングしたものなんですけどね。もちろん店では、僕もよく歌っています。

——お客さんのほうは、どんな歌をよく歌われるんでしょうか？

瀬川　演歌や歌謡曲はもちろん、若い女の子はAKBを歌ったりもしていて、本当にいろいろです。20代から70歳くらいまで、お客さんの年齢層が幅広いんですよ。

入念な取材が実った本物そっくりな店内

——そんな「ドルフィン」さんが、『ガルパン』に登場したきっかけとは？

瀬川　もともとは「まいわい市場」のみなさんが、打ち上げなどで飲みに来てくださっていたんです。多分そのつながりから、スタッフの方に話が伝わったんでしょう。「登場するお店のモデルとして取材させて欲しい」と言うので、「どうぞどうぞ」って。

——実際のロケハンは、どんな感じでしたか？

瀬川　都合2回いらしたんですけど、最初はスタッフの方が10人くらい、2回目は5人ぐらいで、細かいところまで片っ端から写真に撮っていましたね。ただ、それからしばらく音沙汰がなかったんで、「いつ出るのかな？」と思っていたんです。そうしたら、出入りの酒屋さんが「出ているよ」って。豆腐屋さんでも「うちの旦那が最終章を観てきたら、ドルフィンが出ていたって」と言われまして。クレジットに「協力」と出ているし、店もそっくりだし、「多分ここじゃないか？」って、噂になっていたようです。

——実際の映像をご覧になった感想はいかがでしたか？

瀬川　細かい部分まで取材されたので、照明とか、カウンターの上の店名のレリーフとか、本当にそっくりですね。アンプやトイレのドアも同じです。大洗と『ガルパン』の6年がいまにつながって、こうしてウチも映像に出られたわけですから、ありがたいことですね。

お一人様にも優しい紳士淑女の社交場

——最近では、『ガルパン』のファンがお店に来ることもありますか？

瀬川　いっぱい来ますよ！　大洗はファンとお店の方の仲がいいですから、「どうも出ているのはドルフィンらしい」という噂が広まるのも早かったんでしょう。入り口の赤いドアを見て「そっくりだ！」と感心してくださる方も多いし、そう言えばラムを頼む人も増えてきましたね(笑)。遠くから来てくださる方も多く、東京はもちろん、韓国の方も3日続けて来てくれましたし、一番遠い方はフィンランドからいらしてました。ほかには色紙に絵を描いて置いていってくれる方もいらっしゃるんで、ステージの脇に飾ってあります。

——そういうファンの方は、それまでのお客さんとは雰囲気が違います？

瀬川　違いますね。ウチは椅子があまりないでしょ？　だから、お一人だと「相席になると思います」ってお願いするんですが、普通なら嫌がる人もいそうなのに、『ガルパン』のファンはみなさん「構いません」と。しかも相席になったファン同士や、地元の人とも仲良くなって、メール交換したりね。フレンドリーな方が多くて、本当に助かっています。





お店の外観はご覧のとおりで、青い扉が印象的。音響への配慮も行き届いている。営業時間は19：30～1：00で、日曜定休。

——ただ、昭和な雰囲気のカラオケバーとアニメのファンって、なかなか結びつかないイメージもあるのですが。

瀬川　いまは通信カラオケですから

相席になったファン同士や、地元の人とも仲良くなって、メール交換したりね。フレンドリーな方が多くて助かっています

楽曲も多いし、『ガルパン』の歌も入っていますからね。みなさん普通に歌っていますよ。そうかと思うと、今度は地元の人がムード歌謡を歌ったりしてね（笑）。

——お店を続けてこられて、いまほど客層が多様なこともありませんでした？

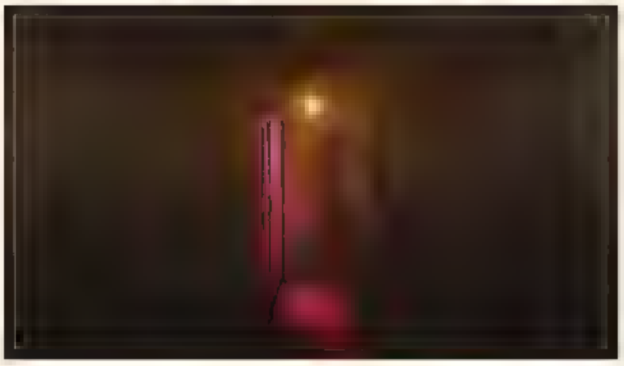
瀬川　ええ。そのぶん僕も、勉強しないといけません。最終章で真似できるところを探してみようかな？ 凝った料理は作れませんけど、燻製ぐらいは出してもいいかもしれませんね（笑）。

——では最後に、これから訪れるファンのみなさんに、一言お願いします。

瀬川　なるべく夢を壊さないようにしますので、ちょこちょこ来てください。大抵はファンか地元の人がいますんで、お一人でも寂しくありませんから（笑）。お酒の店だから入りづらく思う方もいるかもしれませんけど、こういうところが初めての方も、お気軽に。

——飲めない方でも大丈夫ですか？

瀬川　実は『ガルパン』のファンは、半分くらいが飲まない方なんです。遠方からお越しだと、運転する人は飲めないから。もちろんコーラやコーヒー、ジンジャエールも用意していますんで、心配ありませんよ。





短い廊下の先の赤いドア、天井のシャンデリア、スピーカーなど、劇中の描写は本物そっくり。違うのはステージ周辺の装飾やカウンターの椅子ぐらいで、まさにファン必見の再現度と言えるだろう。






実際の店内は、柔らかい照明の落ち着いた雰囲気。メニューは置いていないが、お通しが500円で大抵の飲み物は700円、しかもテーブルチャージは無料！ 昭和からタイムスリップしたかのような良心価格で、安心して楽しむことができる。



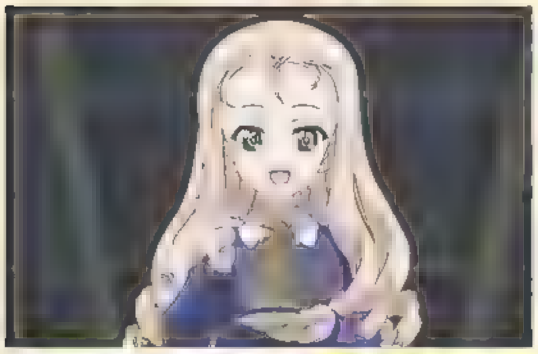
瀬川さんのシングルCD『今夜は荒模様』は、日本クラウンより1300円(税抜)で発売中。一部カラオケで歌うこともできる。因みに茨城県五浦の景色を歌ったカップリング曲は、40年前には何故か『大洗ブルース』というタイトルだったそうである。

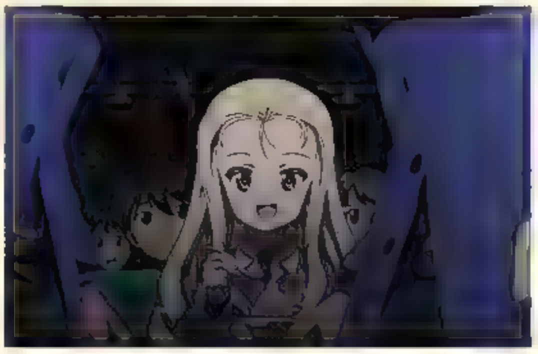


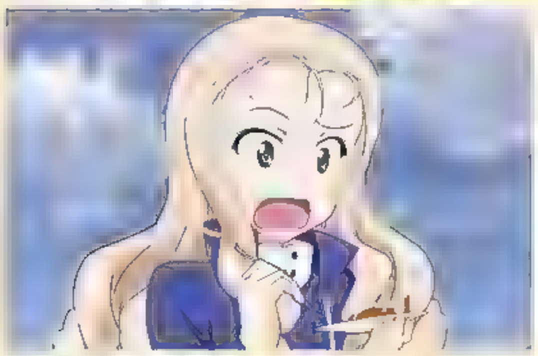
それいけ！ガルパン料理道

●今回のテーマ●
BC自由学園 マリー御用達 フランスケーキ

最終章 第1話で活躍したBC自由学園のマリーの大好物と言えばケーキ！ 今回は、大洗パークホテル協力のもと、フランス生まれのケーキ3種類を作っていただきました。









最終章 第1話では、登場するたびにケーキを食べているマリー。劇中では、抽選会場、優花里の潜入作戦時、そして大洗女子学園の試合中とケーキを頬張っていたほど。今回のガルパン料理道では、そんなマリーも大好きなフランス発祥のケーキをクッキング！ 抽選会場で食べていたルリジューズ（修道女の姿を象ったと言われる小さなシュークリームを重ねたケーキ）、優花里の潜入作戦時に食べていたモンブランを食べやすい形にしたものに加え、自転車の車輪をかたどったパリ・ブレストの3種類を、落ちついた大人の雰囲気が漂う静かなホテルとして人気の大洗パークホテル（41ページの大洗DEEP GUIDEでも紹介）の協力のもと作っていただいた。ケーキ作りを教えてくれるのは、大洗パークホテル調理部・料理長の高橋健二さんとシェフの福田英明さん。甘さも控えめになっているので、大人の男性にもオススメのケーキになっている。（ケーキは誌面用に特別に作っていただいたものであり、ホテルでの提供の予定はありません）

フランスケーキの上手な作り方

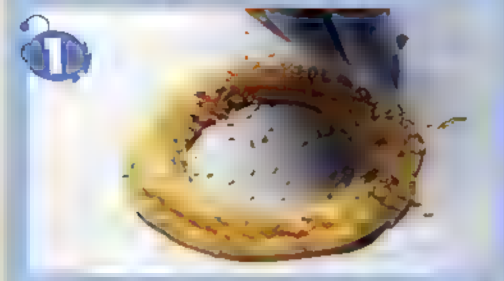


教えてくれた方 大洗パークホテル

高橋健二さん & 福田英明さん



ルリジューズとパリ・ブレストに使うシュー生地は、薄力粉、牛乳、バター、卵黄、グラニュー糖を混ぜたもの。最初に薄力粉と牛乳を混ぜ、鍋で沸騰させ、卵黄は1個ずつ入れて生地を滑らかに作る。



シュー生地を大きめの輪をつくるように、3階層になるように絞り、卵黄を塗りフォークで形を整える。その上のクラッシュアーモンドを振りかけてオーブンへ。



内部にシューを入れるため、焼く際は、同じサイズのリング状にしたシュー生地を一緒に焼いておく。焼き上がったら側面から上下に分かれるように切り分ける。



切り分けた円形のシュー生地にアーモンドクリームを塗り、その上に一緒に焼いておいた中用のシュー生地を配置。これで食べた時に重くなりすぎない作りになる。

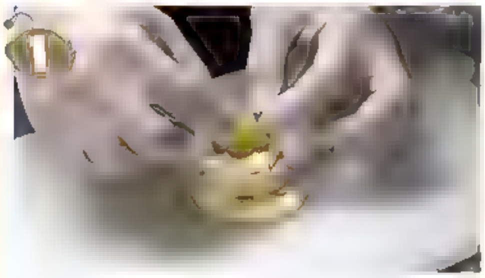


中のシュー生地が隠れるようにアーモンドクリームを絞る。クリームは完成した際に横から見えるので、綺麗な模様になるように絞っていく。



アーモンドクリームを絞った上に、上面のシュー生地を載せる。仕上げに粉砂糖を振りかけて完成。食べる時は、食べやすいサイズに切り分ける。

モンブラン



モンブランの底部には、歯ごたえがありながらも軽く食べられる生地、シュクセを使用。その上に丸く切ったスポンジケーキ、生クリーム、国産のマロングラッセを載せている。



マロンペーストは、フランス産のものと日本産のものを使用。固く立てた生クリームを混ぜてクリーム状にして、細い紐状に絞り出せる絞り口を使って盛り付けていく。



最後に粉砂糖をかけて完成。今回は食べやすい小さめのサイズで制作している。底部分はシュクセではなく、好みに応じてタルト生地などを使って作るのもいいだろう。



出来上がったシュー生地を絞り袋に入れてクッキングシートの上に少量ずつ絞り出す。綺麗に膨らむよう、フォークで角を消して形を整え、表面に溶き卵を塗ってオーブンへ。



オーブンでしっかりと焼き、仕上げにバターを塗ればベースになるシューが完成。シューの中には、別に作った生クリームやカスタードクリームを入れている。



今回はイチゴ風味のチョコレートでコーティングし、生クリームを使って2つのシューを重ね合わせている。仕上げにはホワイトチョコソースと生クリームを載せて完成。

シュー生地
(600g仕上がり)

- 牛乳：250cc
- 無塩バター：100g
- 塩：少々
- 薄力粉：150g
- 卵黄：225g
- 溶き卵：塗り用

モンブラン用 マロンペースト

- フランス産マロンペースト：100g
- 国産マロンペースト：100g
- 水：8cc
- 溶かしバター：20g
- バニラエッセンス、ラム酒：少々
- 生クリーム：120g(45%で固く立てる)

ここがポイント!



フランスのお菓子は、味はもちろん、見た目の美しさも大切! 今回、仕上げには粉砂糖をふりかけることで、モンブランの雪など見ても楽しめるよう心がけている。

あなたの知らない大洗の名店がまだある!

大洗 DEEP GUIDE

地元の方々が利用する大洗の隠れた名店をピックアップ! 本格派からカジュアルなものまで、知る人ぞ知る4つの店舗を紹介していこう。

創作イタリア料理の名店 古橋亭

26年前からアクアワールドの近くに店を構える古橋亭は、イタリア料理をベースに、和食のテイストをプラスした創作料理を提供する、大人の雰囲気が漂う静かな名店。「海辺で美味しいお店をやりたい」という気持ちから、オーナーの宮川文隆さんが大洗に移住してオープン。「ここは、海の幸はもちろん美味しいんですが、福島や北茨城の山のものも良い素材が手に入るし、米も美味しい。そういう意味では魅力的な土地でした」と、大洗の魅力を語る。

大正時代をイメージした静かな店内には、宮川さんが趣味で続けているジャズ・ロックの楽器と、水墨画のコレクションが並び、くつろいだ雰囲気で食事を楽しめるのが嬉しい。ランチ、ディナー共にその日に入った食材で作るコース料理がメイン(ランチは3000円(税抜)~、ディナーは5000円(税抜)~、要予約)。また、1000円(税抜)~1500円(税抜)の幅で気軽に楽しめるパスタランチもある。大洗の海の幸をメインに和食とイタリアンが融合した料理は絶品で、遠くから通う人も多いという。大洗の自然の中で、静かでちょっぴり贅沢な食事を楽しみたい方にオススメだ。

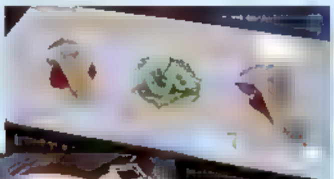
住所：茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8196
電話：029-266-0040　席数：32席
営業時間：12時~15時(LO 14時)/18時~23時(LO 21時)
定休日：火曜日(月曜不定休)※要・予約





オーナーの宮川さんは、大洗の魅力に惹かれて店をオープン。店舗は松林に囲まれた閑静な場所に立っており、入口のイタリア国旗と石に彫られた店名が目印。









写真はランチのコース。苺とカンパチの寿司、温菜とズワイガニのキッシュ、サラミとエノキのピザ、マダコとラグーソースのペンネなど前菜からデザートまで8品(日によってメニューが変わります)。

名物ラーメンは超ボリューム ラーメンとん太 大洗店

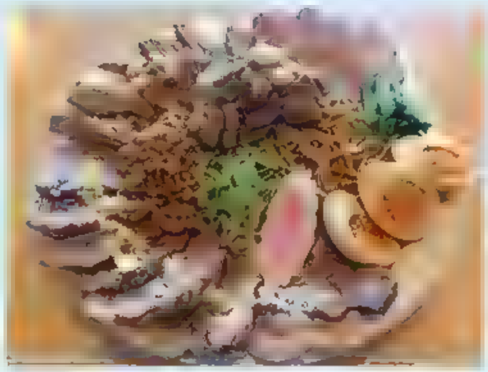
大洗の主要道路である県道2号線の磯浜さくら坂通り沿いにある、ラーメンチェーン「とん太」の大洗店は、食べ応えのあるメニューで地元の人たちに愛される店。1995年から営業を開始した大洗店は、チェーン店としての基本メニューに加えて、他店では味わえない独自メニューを展開しているのが特徴。店長の飯塚聖栄さん自身が各地を食べ歩き、お客さんからの要望を聞いて日々オリジナルメニューの開発に勤しんでいる。さらに、ガルパンの大洗での仕掛け人である常盤良彦さんと共に、チャーシューを盛りすぎて麺が見えない「メガマジ」、おつまみっぽくない油そば「MAUS」といった、食べるのに自信を持つ方に向けた悪ノリ的なラーメンも提供。家族連れから、胃袋に自信のある強者まで、幅広いお客さんに対応する、庶民の味方的なラーメン店なのだ。大洗の町を歩き回り、いつもよりもお腹が空いた時は、とん太の独創的なラーメンで旅を締めくくってみてはいかがだろうか?

住所：茨城県東茨城郡大洗町和銅18-4
電話：029-267-1041
営業時間：10時30分~24時(日曜は23時)
定休日：なし





一人でもファミリーでも気軽に入りやすい外観。店長の飯塚さんを含め、アットホームな空気で出迎えてくれる。



写真はお酒のおつまみとして提供される、大洗店限定の総肉重量850gの大ボリュームメニュー、Mega油そば(通称MAUS)。生ビールorハイボールorジョッキソフトドリンク付き2,778円(税抜)。店頭では税込3,000円というキリの良い価格で販売中(2018年3月現在)。

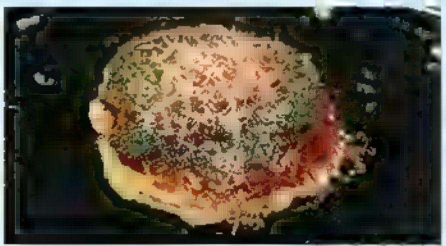
創業40年
地元で愛される老舗
ちくらく茶屋



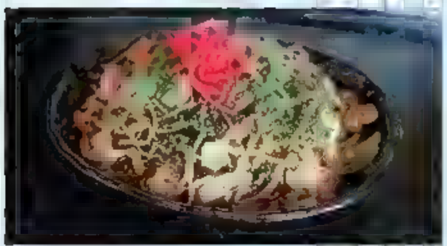


創業当時から変わらない和風な外観が特徴。店主の石沢百合子さんとその娘さんが店舗を切り盛り。お好み焼きも焼き方や焼き加減を教えてくれるので安心。









人気ナンバー1はミックス天(税抜680円)、麺のツメが特徴のカニ玉天(税抜730円)もオススメ。新鮮な魚貝が入ってボリューム満点のミックス焼きそば(税抜730円)とどれもリーズナブルなのが嬉しい。

大洗町の端、なかみなと市との市境となる那珂川沿いにある「かんぽの宿大洗」の近くに40年前から営業する「ちくらく茶屋」は、お好み焼きと甘味が美味しい店として地元の人たちから愛されている。開店当初からほぼ値段が変わらないリーズナブルさから、地元の高校生が放課後に立ち寄ったり、仕事帰りの地元の人たちが鉄板焼きをつまみにビールを飲むような気楽なお店だ。お好み焼きには、地元で獲れる魚貝類が使われており、カニ玉天、あさり天など他では見ないメニューも特徴。お好み焼きは焼き上がりがフワッとしていて、食事としてだけでなく、おやつ代わりにもオススメ。大洗で獲れる魚貝類を鉄板で焼いて食べる素材の味を楽しむメニューも用意されているのも嬉しい。そして、もうひとつの人気メニューが甘味。ところ天やクリームあんみつには、自家製の寒天を使っていて、ちょっとやわらかめの食感がポイント。訪れる人の8割が地元住民という、まさに大洗ローカルの名店だ。

住所：茨城県東茨城郡大洗町磯浜町7944
電話：029-266-3368
営業時間：11時30分～20時30分
定休日：月曜日・火曜日(祝日の場合は営業)

著名人が愛した
高級感漂うホテル
大洗パークホテル

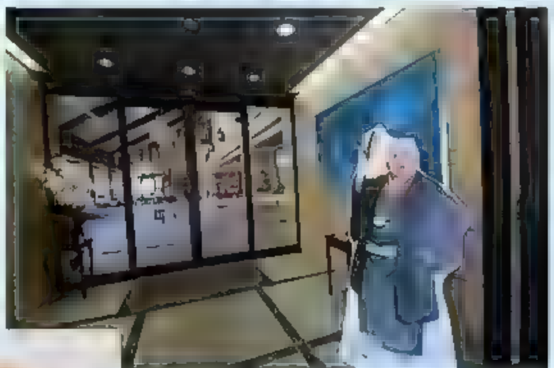




ガルパンを積極的に応援するフロント支配人の安島義則さん。大洗商工会と協力して、応援企画を行っている。



ホテルの入口には日本戦車道連盟理事長の児玉七郎のパネルがお出迎え。威厳のある雰囲気はホテルにもピッタリ。





エスカルゴ定食はワンドリンク＆デザート付き2,778円(税抜)。1日10食限定で、3日前までの完全予約制となっている。

大洗の町からちょっと離れた場所にある大洗海水浴場に面し、松林に囲まれた静かなロケーションに建つ老舗宿泊施設「大洗パークホテル」。上品な佇まいが示す通り、かつては皇室御用達の宿として皇室関係者が大洗を訪れた時に宿泊したほど。客室はほとんどが洋室で、高級感を感じさせる大人の雰囲気を持つ宿であることから、喧噪から離れて静かに宿泊したいというやや高い年齢向けとなっている。その一方で、フロント支配人である安島義則さんが「遊び心でガルパンを応援したい」という思いから、ホテル併設のレストラン「松涛」では、『ガルパン最終章』に関連した特別メニューである「エスカルゴ定食」を1日10食限定で提供中。こちらはフランス料理であるエスカルゴを定食として食べられるよう、料理長の高橋健一さんがごはんに合うような味を実現すべく試行錯誤を重ねて実現した逸品となっている。

住所：茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8249-10
電話：029-267-2171
宿泊料金：大人1名あたり13,889円(税抜)～
ホームページ：http://www.oarai.co.jp/

ガルパン トピックス

GIRLS und PANZER TOPICS

[illegible]

最終章 第1話 劇場来場者 数量限定コレクション

第1週目、第2週目　配布期間:2017/12/9~12/22

島田フミカネ描き下ろしミニ色紙(全3種 ランダム配布)



第3週目　配布期間:2017/12/23~12/29

ガールズ&パンツァー戦車道大作戦!

シリアル付きポストカード(全5種 ランダム配布)



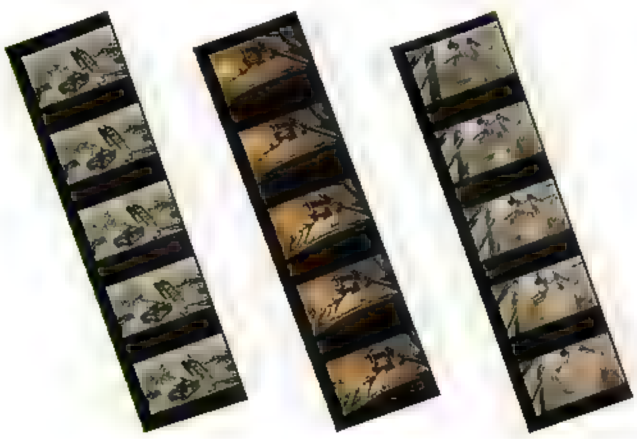
第4週目　配布期間:2017/12/30~2018/1/5

杉本功描き下ろしポストカード(全5種 ランダム配布)



第5週目　配布期間:2018/1/6~1/12

生コマフィルム(ランダム1枚配布)



第6週目　配布期間:2018/1/13~1/19

Lycee Overture　Ver.ガールズ&パンツァー最終章カード(全1種)



第7週目　配布期間:2018/1/20~

島田フミカネ描き下ろしミニ色紙(全3種 ランダム配布)　第1週目と同じもの。配布開始から2週目以降も在庫が残っている劇場では配布継続。

アイテム情報

ガールズ&パンツァー フィギュア道 ダージリン ココス制服ver.



『COCO'S×ガールズ&パンツァー　ココス道極めます!!キャンペーン』から生まれた、ダージリンのスペシャルフィギュアが発売決定!

●PVC完成品(一部ABS製)フィギュア
●受注期間:2018年2月2日～3月28日
●2018年7月25日発売
●13,800円(税抜)
●全高:約235mm
●1/7スケール
●原型制作 ko nen
●発売・販売元　株式会社 壽屋

※画像はイメージです。実際の商品とは一部色味などが異なる場合があります。

ガールズ&パンツァー フィギュア道 アンチョビ ココス制服ver.



「ダージリン」に続いて我らがドゥーチェ「アンチョビ」のスペシャルフィギュアも発売決定! ぜひこちらもお買い求めください!

●PVC完成品(一部ABS製)フィギュア
●受注期間:2018年2月20日～4月13日
●2018年8月24日発売
●13,800円(税抜)
●全高:約240mm
●1/7スケール
●原型制作 ツチヤトモミ
●発売・販売元　株式会社 壽屋

※画像はイメージです。実際の商品とは一部色味などが異なる場合があります。

ウェーブ「ドリームテック」フィギュアシリーズ 秋山 優花里【パンツァージャケットVer.】



大洗女子学園戦車道あんこうチーム装填手、秋山優花里が1/8スケール完成品フィギュアで登場!西住殿と戦車が大好きで、そのミリタリー知識でチームを支える優花里を、パンツァージャケット姿の元気いっぱいなポージングで立体化しました。また、ベースは情景を楽しめるミニヴィネット風になっています。

●PVC完成品(一部ABS製)フィギュア
●2018年4月発売予定
●11,800円(税抜)
●全高 約235mm
●1/8スケール
●原型制作 ズイ 1
●発売・販売元　株式会社ウェーブ

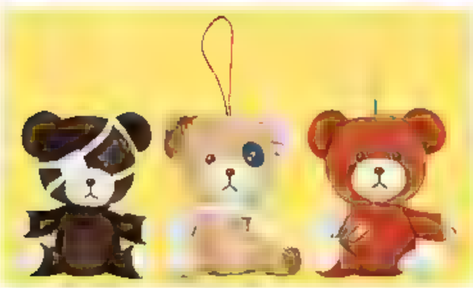
ボココレ　あんこう音頭セット



ボココレクションに、あの「あんこうスーツ」が追加!お手ごろサイズのボコにスーツとキャップをセット、思わず踊りだしたくなる可愛さです。これを飾れば、気分はいつでも大洗です。

●2,315円(税抜)
●3月の大洗海楽フェスタにて販売開始。
以降、順次ガルパンキャラポップストアで販売。

ボコだらけぬいぐるみ



いろいろなボコのぬいぐるみです。

●3月第2週より順次展開
●約10cm(頭からお尻まで)　●プライズ景品
●発売・販売元　フリュー株式会社

【らじぷち】「ガールズ&パンツァーRADIO アンツィオ高校、Avanti!」DJCD&アクリルキーホルダーセット





「ガールズ&パンツァーRADIO　アンツィオ高校、Avanti!」のラジオ番組のDJCD!　そして、アンチョビは「ピザ」、カルパッチョは「カルパッチョ」、ペパロニは「ナポリタン」といった食事とラジオ番組パーソナリティとしての「ヘッドホン」を持ったイラストのアクリルキーホルダーのセット商品です!

【パーソナリティ】吉岡麻耶(アンチョビ 役)　早見沙織(カルパッチョ 役)　大地葉(ペパロニ 役)

●2018年3月17日(土)発売　●4,000円(税抜)
●CD1枚組(12cmアルバム・オーディオCD)
●アクリルキーホルダー　アンチョビ1体、カルパッチョ1体、ペパロニ1体、3種類1セット
●発売・販売元　タブリエ・コミュニケーションズ株式会社

ラジオCD「ガールズ&パンツァーRADIO ウサギさんチーム、まだまだ訓練中!」Vol.2



『ガールズ&パンツァー 最終章』を盛り上げるために、1年生チームのウサギさんチームがまだまだ「訓練」を頑張ってます!! 新規録りおろしラジオでは、大洗女子学園戦車道チームにサメさんチームが新たに加わったので、ウサギさんがサメさんに慣れるために、サメが生息している(?)水族館っぽいことをお届け!?

【パーソナリティ】<ウサギさんチーム選抜部隊>竹内仁美(澤梓 役)中里望(山郷あゆみ 役)　多田このみ(阪口桂利奈 役)　山岡ゆり(宇津木優季 役)　秋奈(大野あや 役)　【コーナーパーソナリティ】小松未可子(丸山紗希 役)　【アーカイブゲスト】第15回/第18回　渕上舞(西住みほ 役)　第16回　井口裕香(冷泉麻子 役)　第20回 佐倉綾音(お銀 役)　第21回 原由実(マノー 役)

●2018年3月21日発売
●3,000円(税抜)
●CD2枚組(12cmアルバム)DISC1 オーディオCD　DISC2 データCD-ROM　アニメスタッフによる描きおろしジャケット
●DISC1 新規録りおろしラジオ　DISC2:ラジオアーカイブ第12回～第22回をMP3にて収録
●発売・販売元　タブリエ・コミュニケーションズ株式会社

一番くじ ガールズ&パンツァー 劇場版 ～戦車道大作戦! PART3～



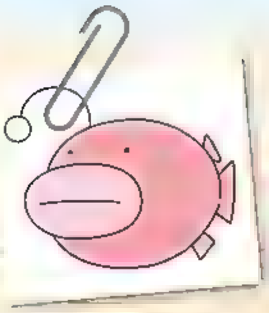






●2018年3月24日(土)より順次発売予定　●1回680円(税込)　●発売・販売元　株式会社バンプレスト
●取扱店:ローソン、書店、ホビーショップ、TSUTAYA、アニメイト、ゲームセンターなど
●URL　PC、モバイル共通 http://bpnavi.jp/t/garupan9

※店舗によりお取り扱いのない場合や発売時期が異なる場合がございます。なくなり次第終了となります。



Girls und Panzer Event Report

ガルパン・イベントレポート

前年に続いて13万人もの来場者で賑わいを見せた「大洗あんこう祭」や、昨年末いよいよ公開となった最終章第1話の「初日舞台挨拶」などをピックアップ！
出演者のアツいトークや会場の熱気をお届けします！

第21回 大洗あんこう祭

今年も大・盛・況!!

大賑わい!!

2017年11月19日、あんこうの季節の到来とともに大洗町で開催された「第21回 大洗あんこう祭」で、さまざまなガルパン関連イベントが行われた。毎回盛り上がるステージイベントは、最終章 第1話の劇場上映直前ということもあって今回も大盛況！ キャストトークショーにはあんこうチームの渕上舞さん、茅野愛衣さん、尾崎真実さん、中上育実さん、井口裕香さんが最終章のコート姿で登場。意外とリラックスしているなど公開間近の心境を語った。単語ひとつで最終章を表すコーナーでは「阻止」など意味深な言葉も。ライブコーナーでは、4年ぶりの参加となる佐咲紗花さんが第1話〜第3話の主題歌「Grand symphony」を熱唱。ガルパン応援大使&大洗大使&いばらき大使の蝶野正洋さんとボコ、アライッペによる大洗のPRのほか、最新情報の告知も行われた。







ステージイベントには渕上舞さんほかメインキャストの5人と、佐咲紗花さん、蝶野正洋さんが登場した。ラストは全員で「パンツァー・フォー」

『ガールズ&パンツァー 最終章』第1話 上映記念舞台挨拶

2017年12月9日、いよいよ劇場公開を迎えた「ガールズ&パンツァー 最終章」第1話。当日は上映開始を記念した初日舞台挨拶が、新宿バルト9にて行われた。本編上映の終了後、あんこうチームの渕上舞さん、茅野愛衣さん、尾崎真実さん、中上育実さん、井口裕香さんらキャスト陣に加えて、第1話〜第3話の主題歌を歌う佐咲紗花さんが登場。カモさんチームの3人を演じる井澤詩織さんを司会に迎え、最終章の感想を語り合った。その後もお気に入りのキャラクターや音響についてなど話題は尽きず、主題歌の話では佐咲さんが、友情と絆を一番に書きたかったとコメント。主題歌の感想を求められた会場からは、大きな拍手が巻き起こった。最後はファンに向けて一人ずつメッセージを送り、恒例の「パンツァー・フォー！」の掛け声で締めくくられた。



本編終了後、興奮冷めやらぬうちに舞台挨拶がスタート！
（写真上）左から佐咲紗花さん、井口裕香さん、中上育実さん、渕上舞さん、茅野愛衣さん、尾崎真実さん、井澤詩織さん。





第42回 大洗商工感謝祭

漢祭りの始まりだ!





(写真上)左から景浦大輔さん、伊丸岡篤さん、中西としはるさん。伊丸岡さんと中西さんは役のモデルになったご本人たちと対面を果たした。

2017年11月3日、大洗商工感謝祭でガルパンキャストトークショーが開催された。カジキの解体ショーやお楽しみ大抽選会の後、ステージに登壇したのは役人・辻廉太役の景浦大輔さんと新三郎&肴屋主人役の伊丸岡篤さん、クックファン店主役の中西としはるさんの3人。ガルパンイベントには珍しい漢祭りだ。また、ステージイベントの合間には、この日が誕生日の小山柚子の生誕祭と、台風で延期になっていた西住みほの生誕祭も行われた。

ガルパン博覧会



パネルの生徒たちが着ているコスチュームは、島田フミカネ氏がこの博覧会用にデザインしたオリジナル。そのデザイン設定資料や実物コスチュームも展示!





テレビシリーズ放送から5周年を記念して開催されている、ガルパン初の大規模原画展。2017年12月23日~12月31日に東京で開催されたのを皮切りに、2018年3月8日~3月20日は大阪で、同4月7日~5月13日は新潟で開催される。展示される原画はテレビシリーズからOVA、最終章 第1話まで網羅(最終章 第1話は複製原画)。ジオラマの特別展示や、みほ・まほVer.とミリタリースタッフVer.のある音声ガイドなど、見逃せない&聴き逃せないあれこれがいっぱい!

ディナーショー ガルパン秘密の部屋2017



2017年12月23日、ホテルテラス ザ ガーデン水戸で「ガルパン秘密の部屋2017」と題するクリスマスディナーショーが行われた。食事の後のトークショーでは、尾崎真実さんと中村桜さんが登場。第1部ではミリタリー監修の田村尚也さんと齋木伸生さんが、フランス戦車について時間切れになるほど語り倒し、第2部では岩浪美和音響監督が音響についての技術的な話を繰り広げるなど、ディナーショーとは思えない濃い話が聴けた夜になった。

アクアワールド トークイベント

2017年12月24日にアクアワールドで「ガルパン5th×アクアワールド15thトークイベント in Xmas」が開催され、秘密の部屋に続いて尾崎真実さんと中村桜さんが出演。会場は普段イルカショーなどを行っているオーシャンシアターで、後ろでイルカが泳ぐ中という一風変わったトークショーとなった。今後アクアワールドでやりたいイベントとしてサメさんチームトークショーなどが挙がったが、実現はするのか⁉



坂本龍馬 書簡貸出セレモニー&トークショー







2018年1月14日、高知で開催された「ガールズ&パンツァー 坂本龍馬 書簡貸出セレモニー&トークショー in 高知」に、カバさんチームの仙台エリさん、森谷里美さん、井上優佳さん、大橋歩夕さんが、大洗町からの特使として参加。大洗町の「幕末と明治の博物館」に収蔵されている坂本龍馬の書簡を「高知県立坂本龍馬記念館」に貸し出すという大役を無事果たした。イベントには1500人ものファンが集まり、大盛況のうちに終了した。

『ガールズ&パンツァー 最終章』第1話ミリタリートークショー付き上映会

2018年1月9日に新宿バルト9でミリタリートークショー付きの上映会が開催された。考証・スーパーバイザーの鈴木貴昭さんに、岡部いさくさん、田村尚也さん、齋木伸生さん、吉川和篤さんというファンにはお馴染みの監修メンバーに加え、新たに監修として参加したモリナガ・ヨウさんも登壇。監修の裏話を披露した。





■表紙の戦車
BC自由学園
FT-17／ARL44

所属：BC自由学園
生産：フランス
製造：ルノー（FT-17）／ARL（ARL44）

レイアウト・3DCG：柳野啓一郎
美術＆レタッチ：岡村勝介（スタジオ・アカンサス）

企画
杉山 潔（バンダイビジュアル）
新井紘太（バンダイビジュアル）

編集・執筆
中村公彦
鈴木貴昭
糟谷富美夫
吉川和篤
モリナガ・ヨウ

執筆・編集協力
石井 誠
岡島正晃

写真提供
グランドパワー（ガリレオ出版）
鈴木貴昭

カバー・本文デザイン
原田美穂（OverDriveDesign）
浜岡弘臣（OverDriveDesign）
中村浩樹（OverDriveDesign）

協力
バンダイビジュアル
アクタス
グラフィニカ
鹿島臨海鉄道
歌族ステージ ドルフィン
古橋亭
ラーメン とん太 大洗店
ちくらく茶屋
大洗パークホテル
大洗町商工会
常盤良彦（クックファン・大洗まいわい市場）
大洗町の皆さま

発行日　2018年3月23日
発行人　河野 聡
発行所　バンダイビジュアル株式会社
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-18-14
恵比寿ファーストスクエア
https://www.bandaivisual.co.jp/
印刷所　株式会社テンプリント

【バンダイビジュアル お客様センター】
TEL：03-5828-7582
受付は月曜日から金曜日までの午前10時から午後5時まで
（祝日、年末年始を除く）

TU-1022

月刊戦車道

第41回 無限軌道杯 号外 第1号







ガールズ&パンツァー GIRLS und PANZER

月刊 戦車道 特別編集

月刊 戦車道 第41回 無限軌道杯 号外 第1号

●発行：財団法人 日本戦車道連盟 Tel.1000-100-5050
●編集：月刊戦車道 編集部
●発売・販売元：BANDAI VISUAL バンダイビジュアル株式会社

TU-1022

